

ホソバカナワラビ-スタジイ群集 *Rumohra-Castanopsisietum sieboldii*

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 温暖な地域の低海拔地で、ミズバネ-スタジイ群集より湿った立地に成立している。表層土は浅くないがイデ-タブ群集の立地ほど発達していない。谷筋や凹地地帯に多くみられる。

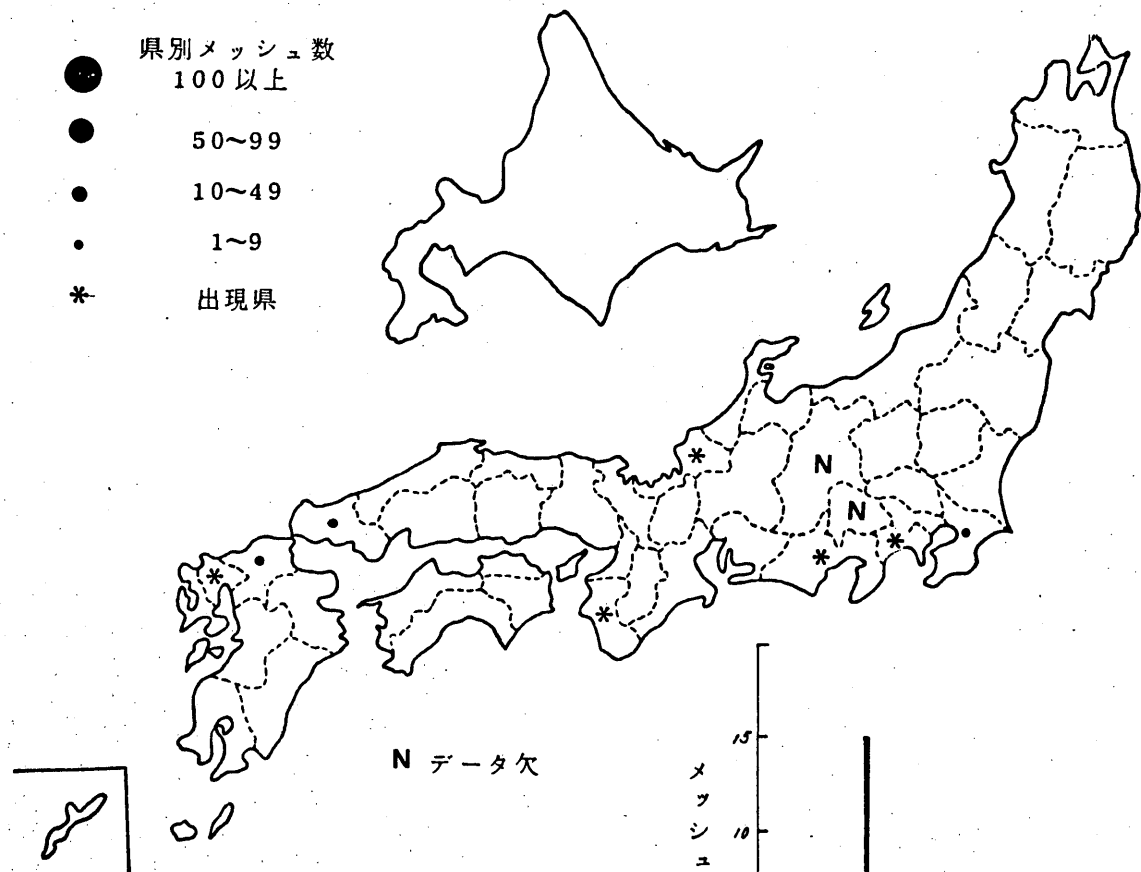
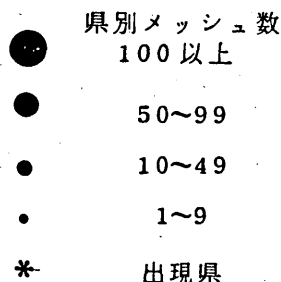
〈種組成〉 高木層にはスタジイが優勢。タブキが混生することが多い。亜高木層には、ヤブツバキ、ヒサカキ、ネズミオナ、セブツゲイなどが生育し、低木層には、高木層、亜高木層の幼樹が多く生育している。草本層にはホソバカナワラビがこれにかわることもある。

〈群落の特徴〉 ホソバカナワラビ(コバノカナワラビ)による特徴づけられるスタジイ林で、タブ林に近い立地に成立するため、しばしばタブキを混生している。温暖な条件、土壌条件により、ミズバネ-スタジイ群集やイデ-タブ群集あるいはヤブコウジ-スタジイ群集におきかわる。

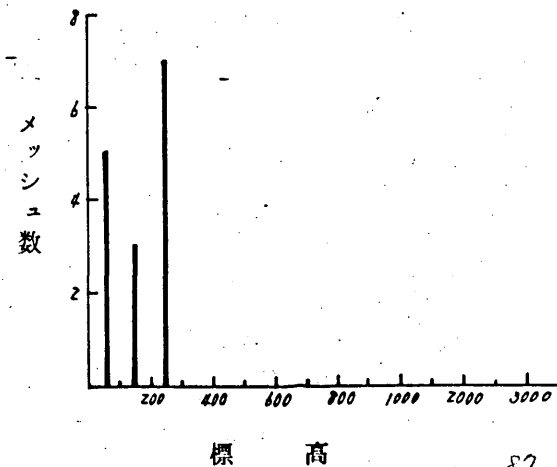
〈分布〉 静岡以西の海に近い地域に分布している。瀬戸内海沿岸地域では降水量が少なく乾燥しやすいため、ホソバカナワラビ-スタジイ群集はほとんどみられない。

〈その他〉 宮脇ら(1971)により提言された群集で、これには、これまでホソバカナワラビ-タブ群集とされていた群落の一部と、鈴木和由(1949)により提言されたスタジイ-コバノカナワラビ群集がまとめられたとされている。

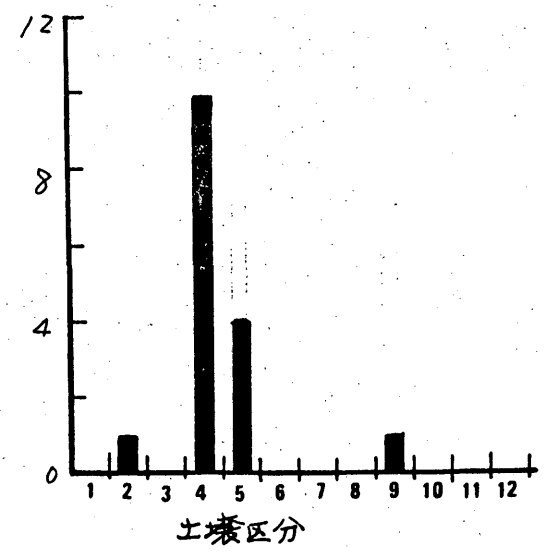
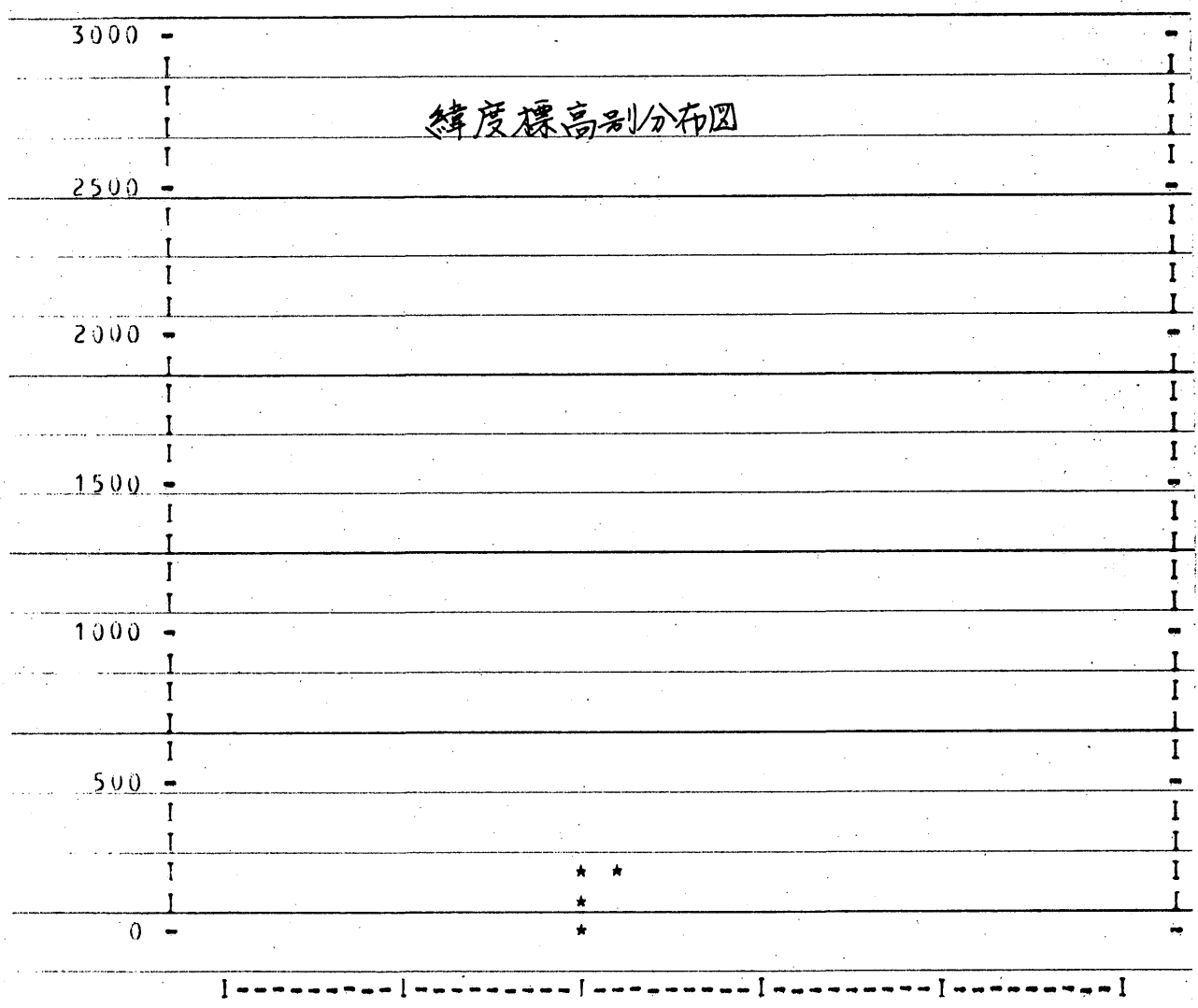
\*61304 ホソバカナワラビ-スタジイ群集



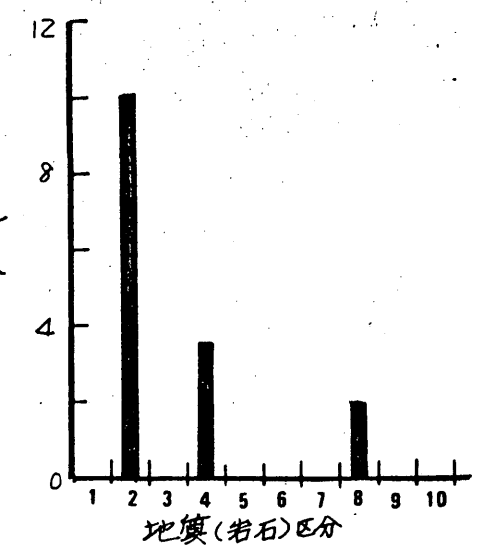
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61304A	ホソバカナワラビ-スタジイ群集	8	神奈川, 福井, 静岡, 和歌山, 山口, 福岡, 佐賀
61304B	スタジイ-ホソバカナワラビ群集	7	千葉
	計	15	



(E3030) ホツバカナワラビ-スタジイ群集 ( \*61304 )

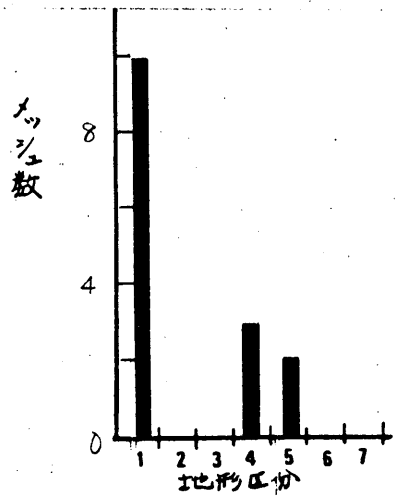


- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他

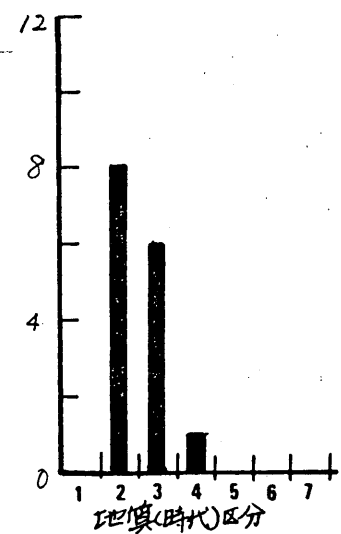


- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの

26 30 34 38 42 46 (イ)



- 地形区分別頻度図
- 1 山地
  - 2 山麓地
  - 3 火山地
  - 4 丘陵地
  - 5 台地, 緩丘
  - 6 低地
  - 7 河川, 砂洲



- 地質(時代)区分別頻度図
- 1 古生代
  - 2 中生代
  - 3 古第三紀
  - 4 新第三紀
  - 5 洪積世
  - 6 沖積世
  - 7 その他

リュウキュウアオキー-スタジイ群集 Psychotrio - Castanopsis sieboldii  
 ケナガエサカキ-スタジイ群集

リュウキュウアオキー-スタジイ群集

<相観> 常緑広葉樹林の高木林, 亜高木林

<生育地> 山地の中性から酸性を示す赤褐色土壌を母材とした地域のやや乾燥した山地斜面や, 低山地, 平地に発達している。

<種組成> 高木層にはスタジイが優占し, その他イヌキ, ヒメスズリハ, イシ, ヤマモモなどが生育している。 亜高木層にはタイミンカバ, コバシモチ, モッコク, ツゲモチ, アデクなどがみられ, 低木層にはリュウキウチク, シミリアキ, シアクチ, マンリョクなどがみられ, 草本層には, タシロスケ, カクサ, エウチホクラン, エウコランなどの草本やシダ植物が生育している。

<群落の特徴> 亜熱帯性の広葉樹林である。

<分布> 沖縄本島の北部の山地, 奄美人島や徳之島に分布する。

ケナガエサカキ-スタジイ群集

<相観> 常緑広葉樹林の高木林, 亜高木林

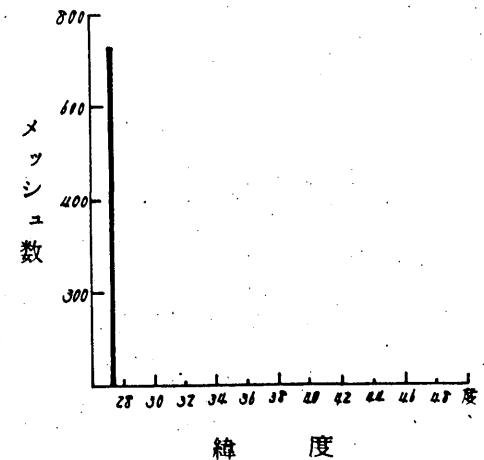
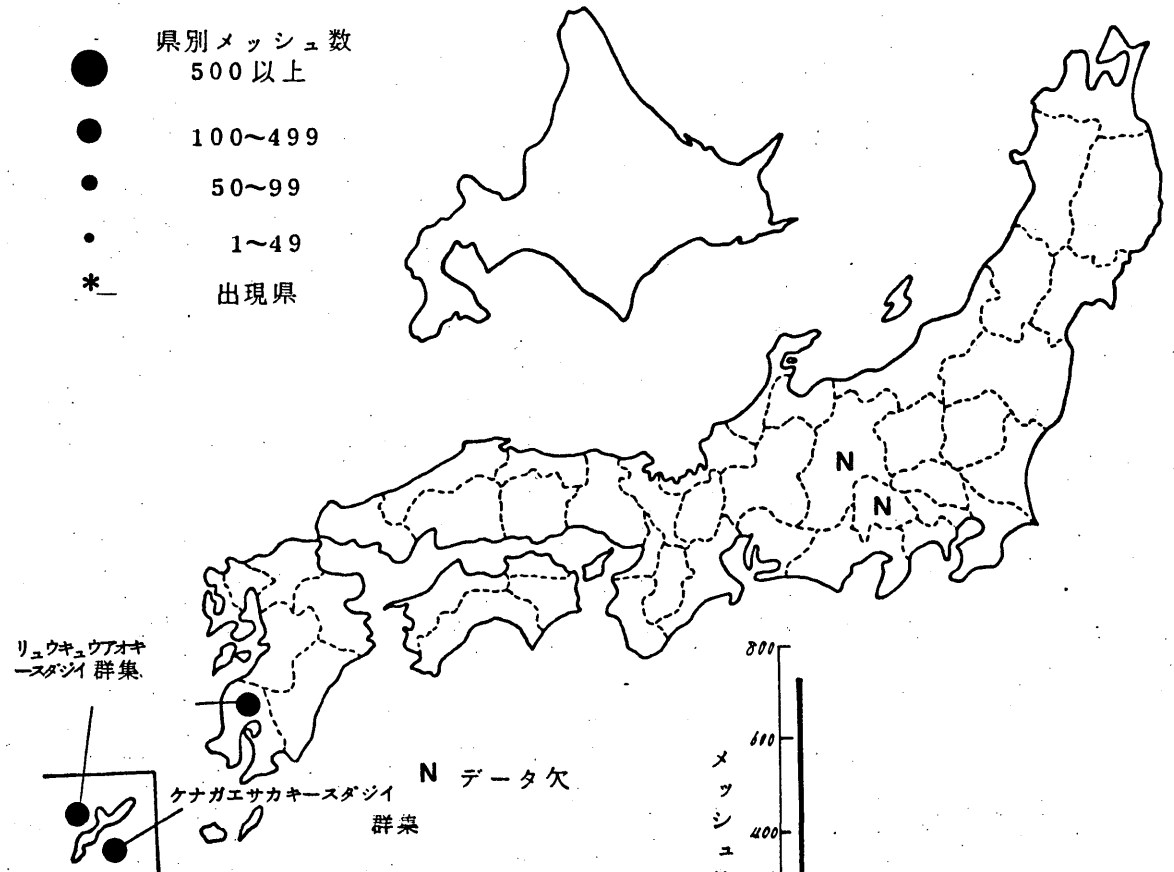
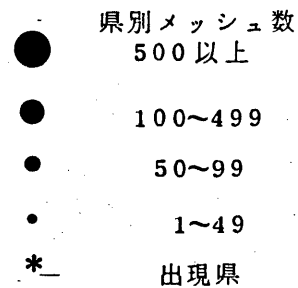
<生育地> 西表島の第三紀砂岩地域, 石見層の白見岳, 石垣島の花崗岩地域など, 西島の広い面積にわたって成林している。 土壌流出の早い砂岩と頁岩の風化した土壌に成林している場合が多い。

<種組成> 高木層にはスタジイが優占する他, ヨウガンハリキ, ツルアダン, タクキ, フカキなどが生育し, 亜高木層には高木層の樹種のほか, コバシモチ, ヤヤマシキ, タイミンカバなどが, 低木層にはネヘゴ, マリツリミキ, シメサオキ, ヒカキササバなどが生育している。 草本層にはコバカワラビ, ツクギ, ヤヤマシモタン, ヒメウシなどがみられる。

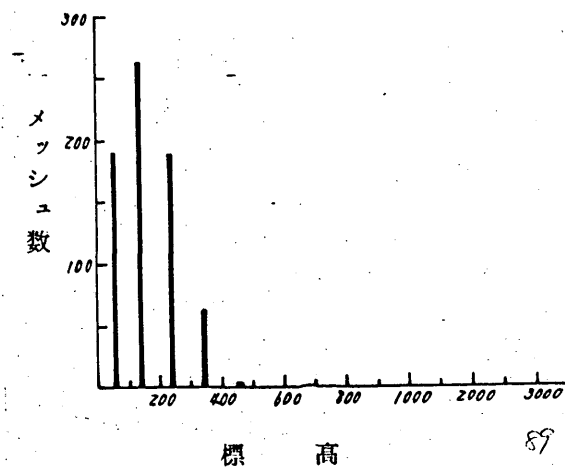
<群落の特徴> 亜熱帯性の広葉樹林である。

<分布> 沖縄県の西表島, 石垣島に特有。

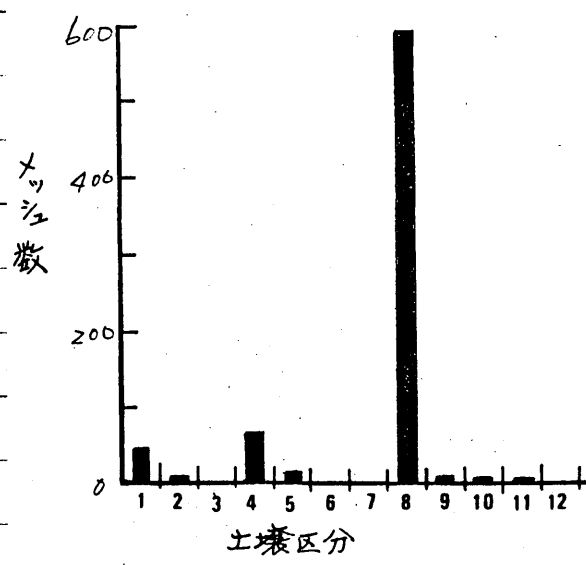
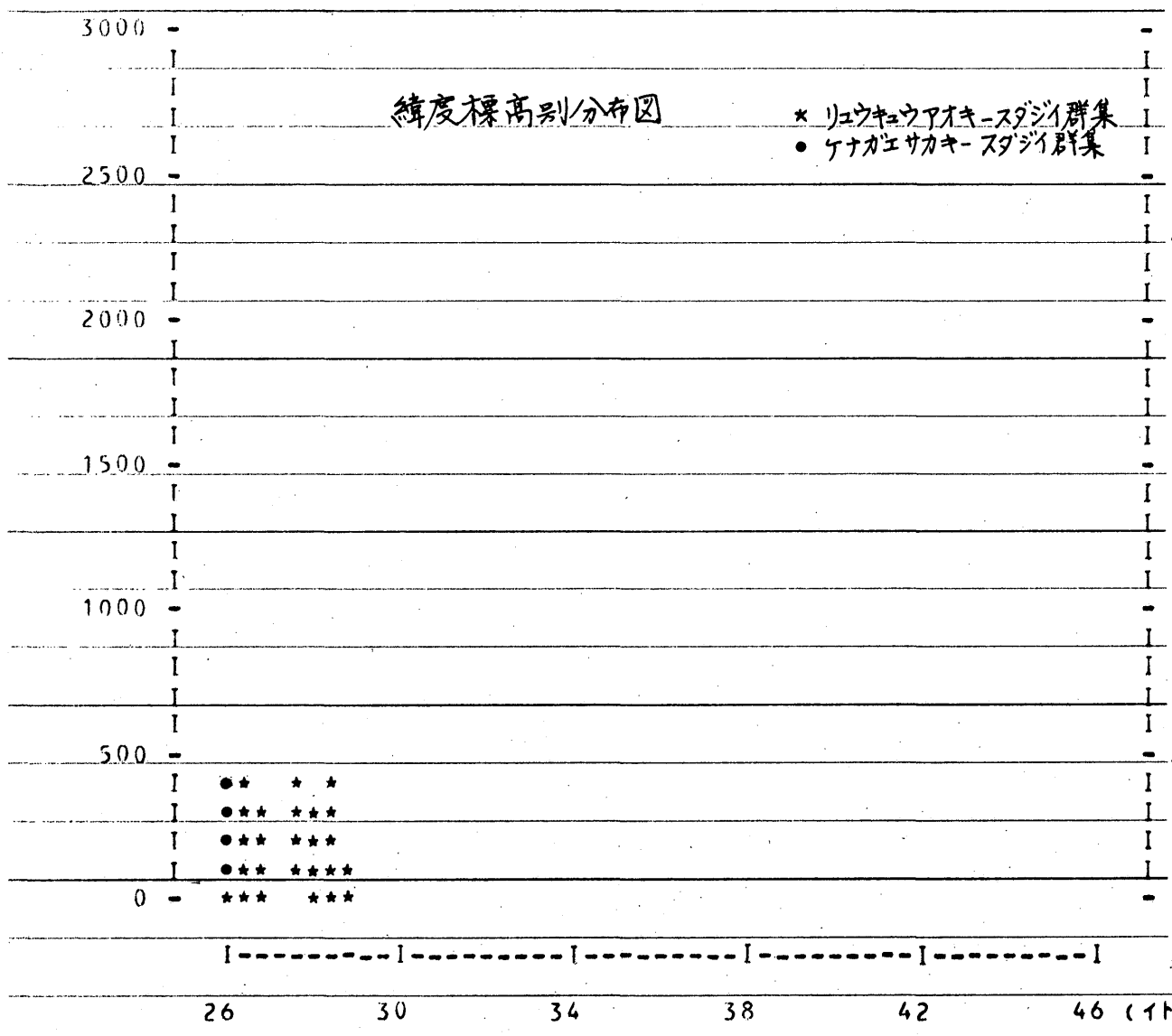
\*61305 リュウキュウアオキー-スタジイ群集  
 \*61314 ケナガエサカキ-スタジイ群集



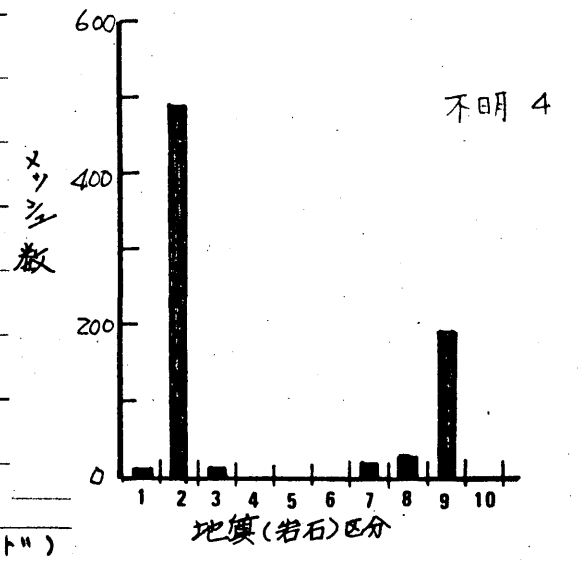
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61305	リュウキュウアオキー-スタジイ群集	514	鹿児島, 沖縄
	計	514	



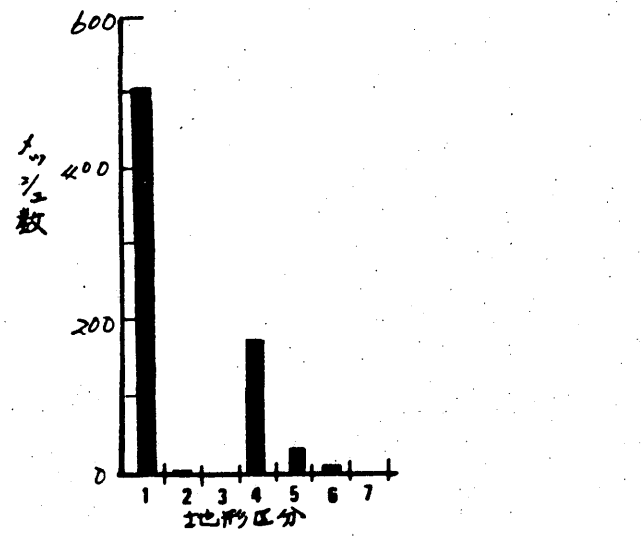
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61314	ケナガエサカキ-スタジイ群集	221	沖縄
	計	221	



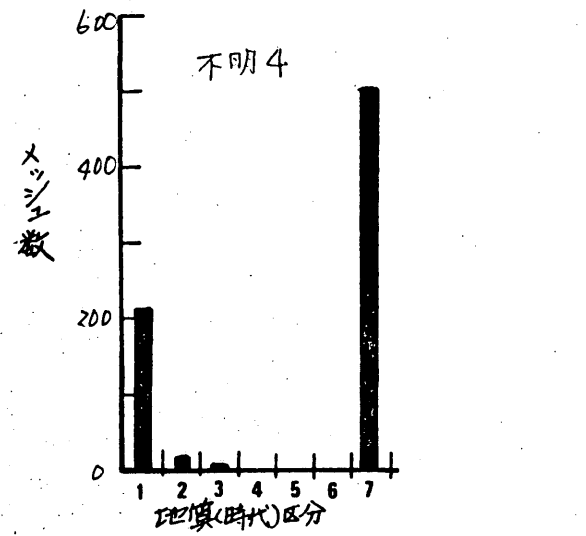
- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他



- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (安山岩、玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの



- 地形区分別頻度図
- 1 山地
  - 2 山麓地
  - 3 火山地
  - 4 丘陵地
  - 5 台地、緩丘
  - 6 低地
  - 7 河川、砂州



- 地質(時代)区分別頻度図
- 1 古生代
  - 2 中生代
  - 3 古第三紀
  - 4 新第三紀
  - 5 洪積世
  - 6 沖積世
  - 7 その他

イノデ-タブ群集 *Polysticho-Machiletum thunbergii*  
 ムサシアブミ-タブ群集 *Arisaema ringens-Machilus thunbergii* community

〈相観〉 常緑広葉樹の高木林

〈生育地〉 海岸に近い低地と丘陵地の斜面下部。凹状地、谷間など土壌の増積の厚い  
 通潤地に生育する。

〈種組成〉 高木層にはタブキが生育し、他にヤキ、エキ、シダモなどが混生することがある。亜高  
 木層にはヤツハキ、シダモ、モチキ、ヤジツクイなどが生育し、低木層にはヤツハキ、ヒサカキ、  
 ヤシテ、アキなどが生育している。草本層にはイノデ、タブ、ベニタブ、キツヒシバヒゲなど常緑  
 植物が多くみられる。

〈群落の特徴〉 イノデを特徴種とし、高木層におけるタブキの優占で特徴づけられる群落である。  
 最も適した立地ではタブキが林冠を優占し、光をさえるため林床や低木層はきわめて  
 単純で出現種数が少ない。

〈分布〉 東北から九州まで広い地域にみられる。

〈その他〉 イノデ-タブ群集は1948年日本林学会誌で鈴木(時)がタブ-ムサシアブミ群集と規定した  
 群落で、1949年鈴木によりイノデ-タブ群集と改称された(宮脇ら1971)。九州地方  
 では林床にムサシアブミが特徴的に生育するタブ林がみられ、ムサシアブミ-タブ群集  
 (集)として報告されている。

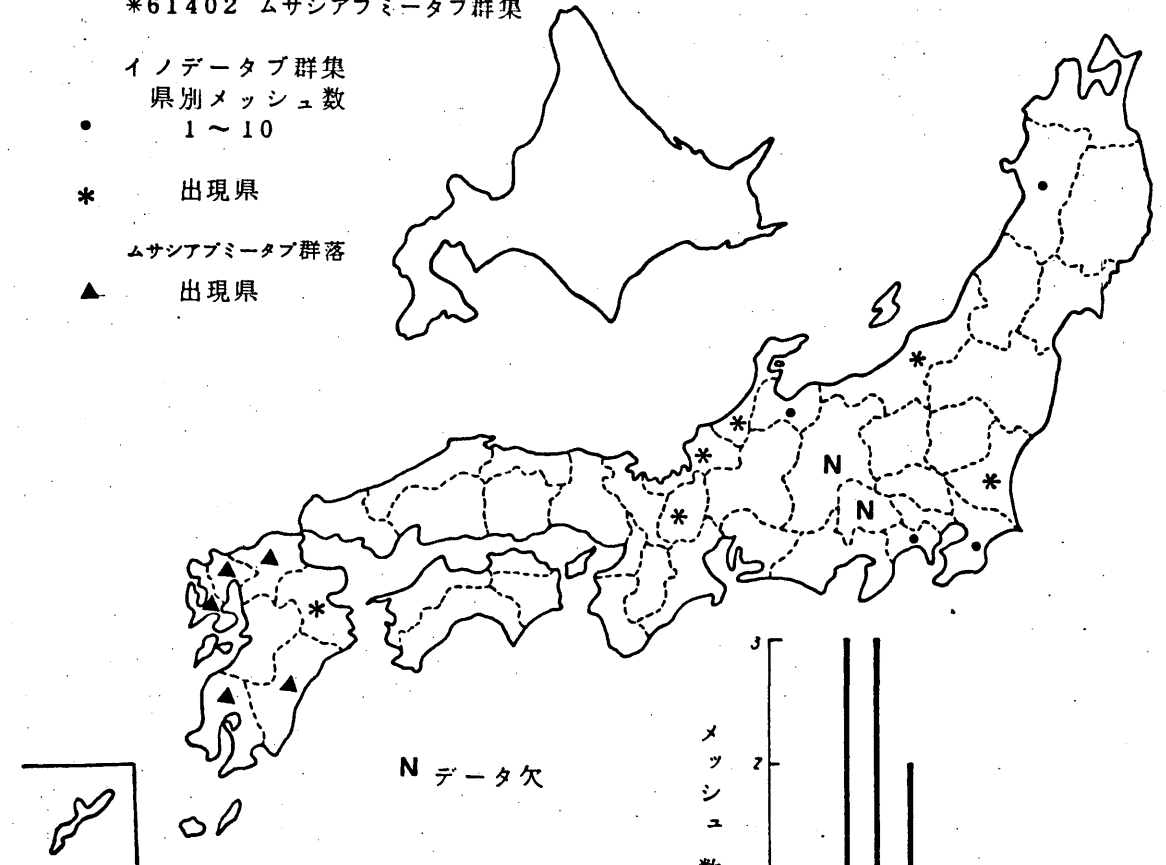
\*61401 イノデ-タブ群集  
 \*61402 ムサシアブミ-タブ群集

イノデ-タブ群集  
 県別メッシュ数  
 1~10

\* 出現県

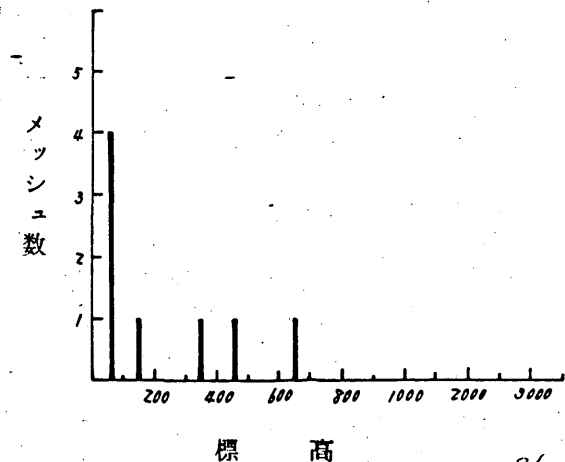
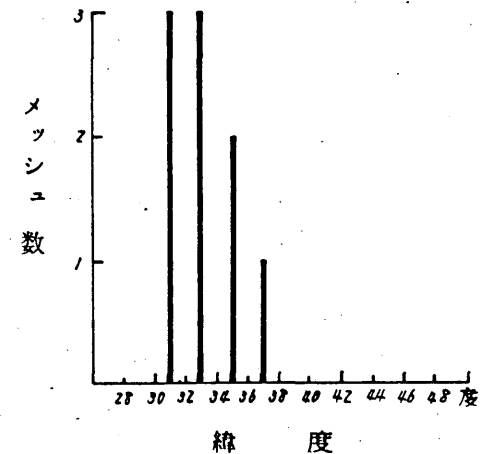
ムサシアブミ-タブ群落

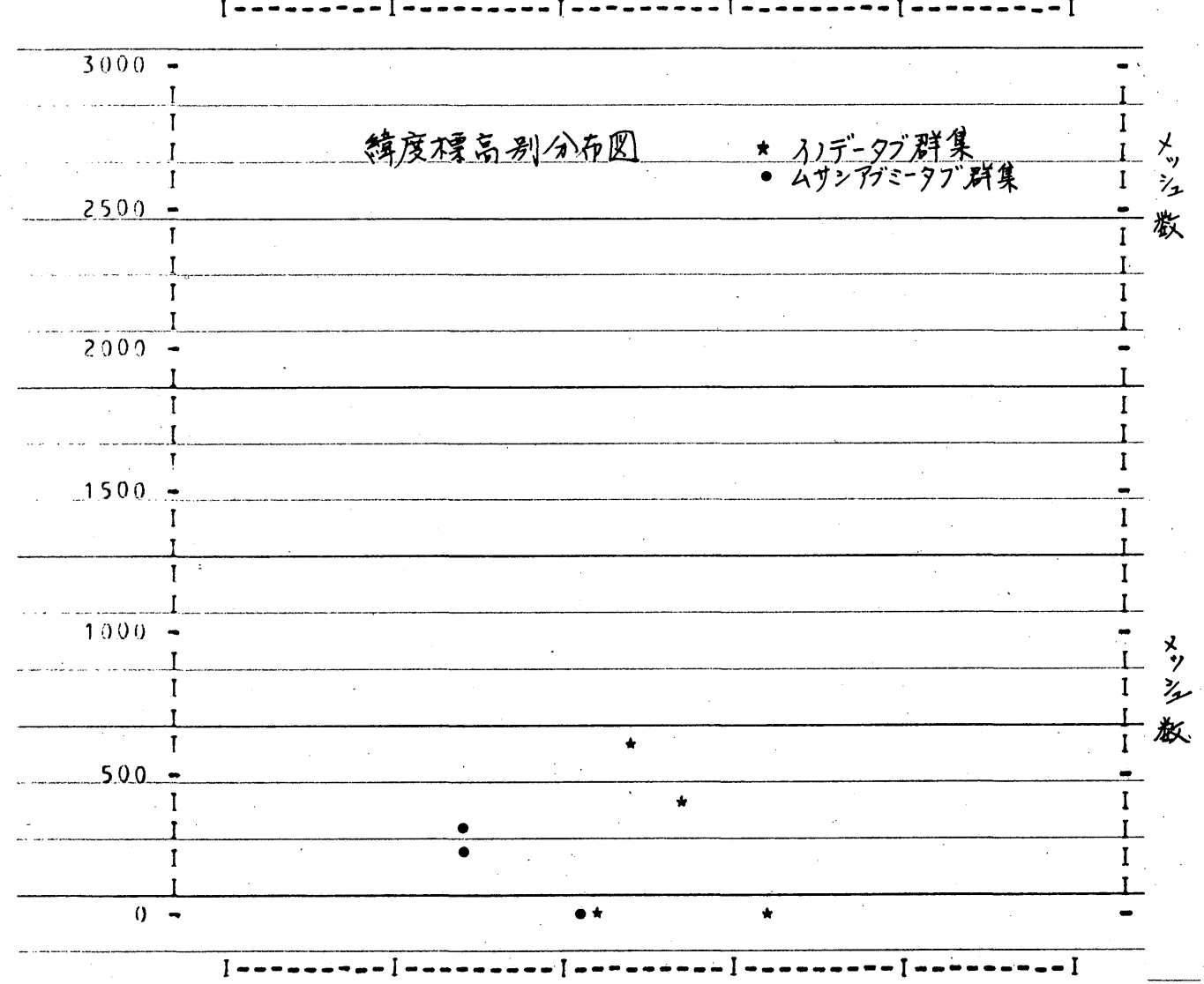
▲ 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
61401A	イノデ-タブ群集	3	秋田, 神奈川, 新潟, 富山, 石川, 福井, 滋賀
61401B	タブ-イノデ群集	1	茨城, 千葉, 大分
	計	4	

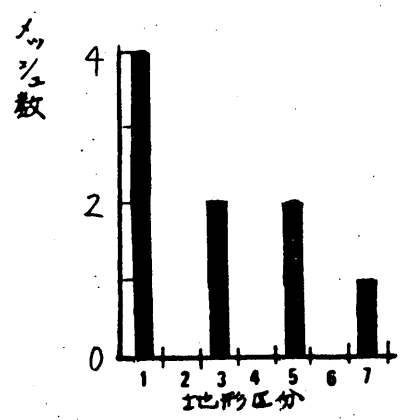
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61402A	ムサシアブミ- タブ群落	5	福岡, 佐賀, 宮崎, 鹿児島
61402B	タブ- ムサシアブミ群集	0	長崎
61402C	ムサシアブミ-タブ群集	-	
	計	5	



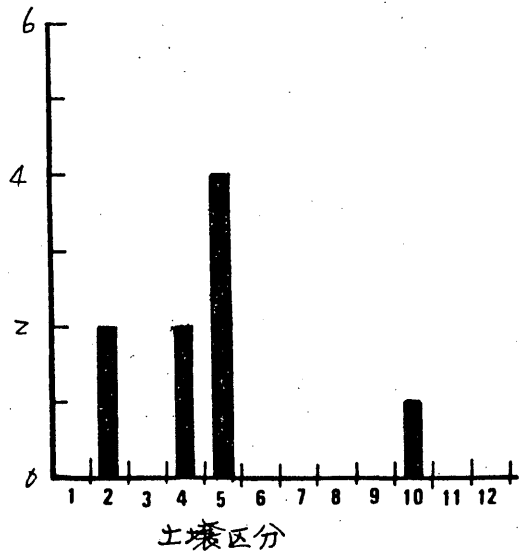


26 30 34 38 42 46 (イ°)

地形区分別頻度図

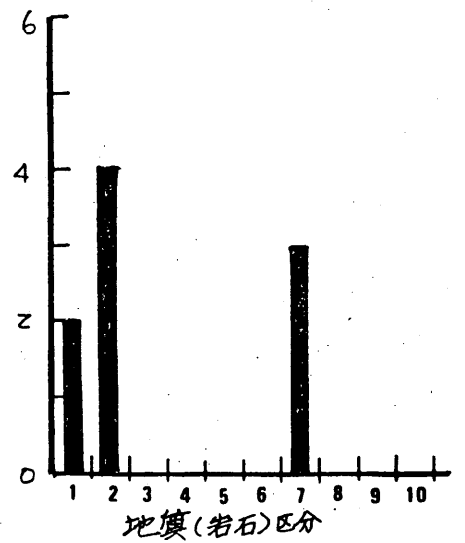


- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



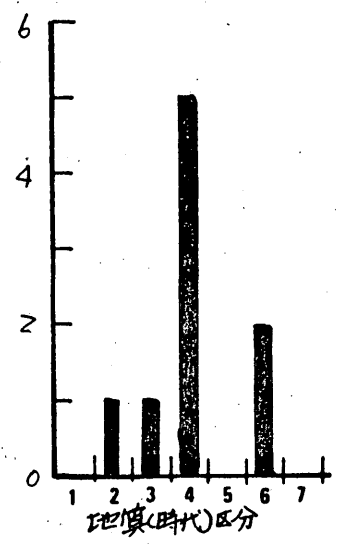
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

ウバメガシ群落 *Quercus phillyraeoides* community

〈相観〉常緑広葉樹の亜高木林

〈生育地〉海岸の段崖に生育するが時に内陸にも出現する。

〈種組成〉亜高木層にはウバメガシが優占し、クロマツトウ、ヤブツバキなどが混生している。低木層にはトウバラ、ハマヒサカキ、ネズミモチ、マサキなどがみられ、草本層には田舎赤層、俗木層の幼樹の他、ツツキ、ヒトツバ、ヤブコウジ、ヤブランなどが生育している。

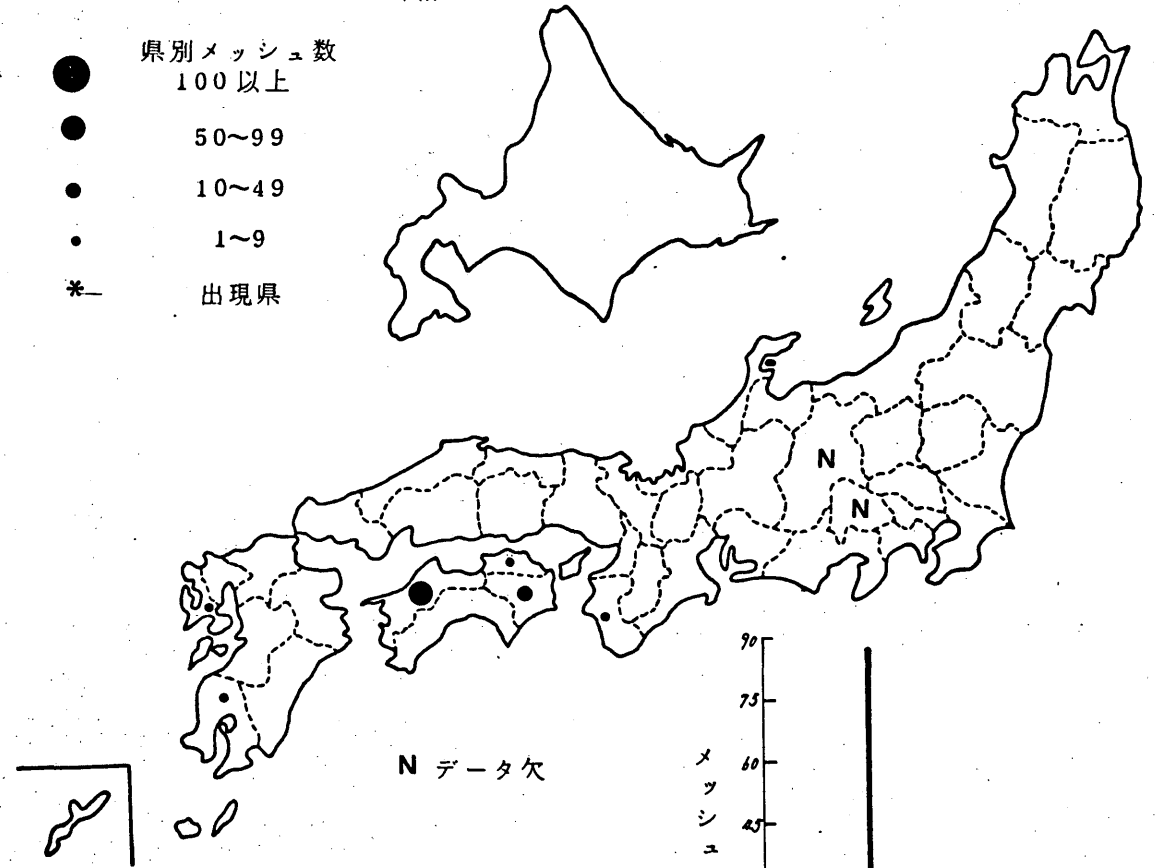
〈群落特徴〉ウバメガシの優占で特徴づけられる。

〈分布〉四国地方より報告されている。

〈その他〉ウバメガシは伊豆半島以西の太平洋岸に分布しており、初島(1949)によれば年平均気温15℃以上、最寒月の最低気温4℃以上の地域に分布されている。海岸の風衝地に特徴的な低木林がみられ、ウバメガシトウバラ群集とよばれるものが多々、四国では一括してウバメガシ群落とされている。

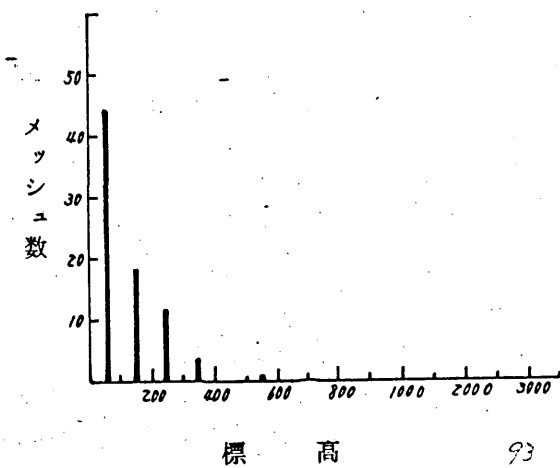
\*61700 ウバメガシ群落

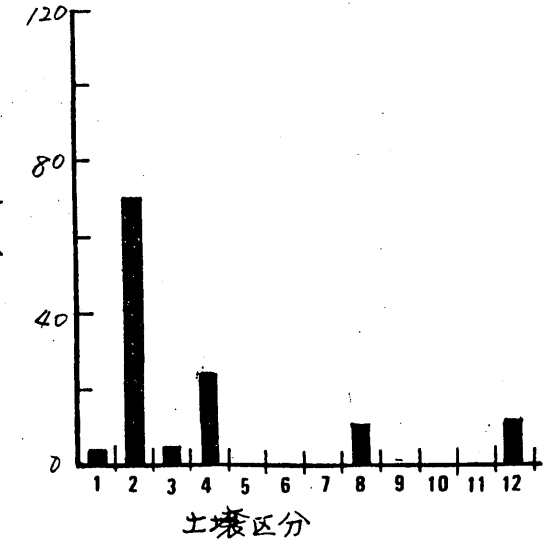
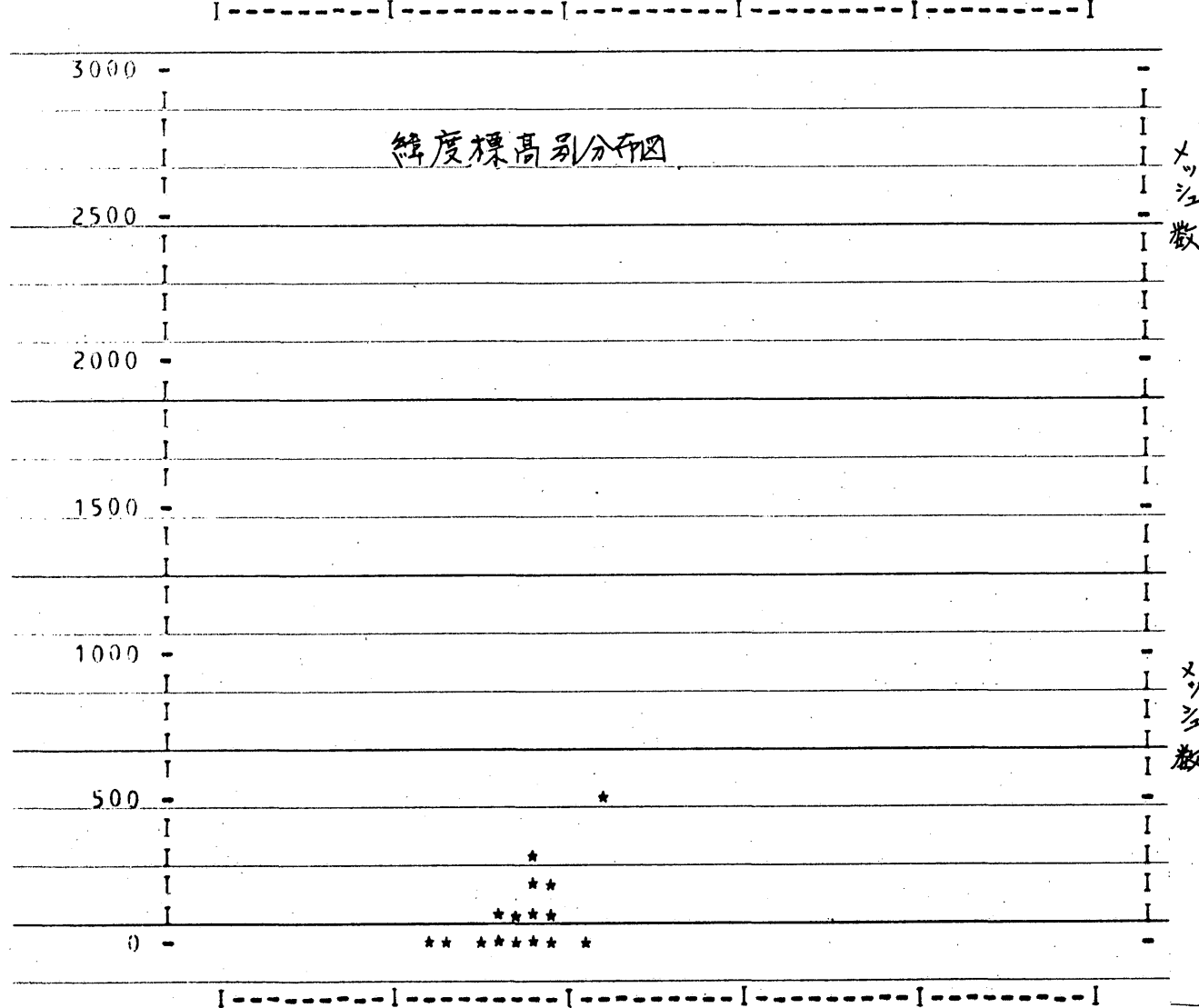
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



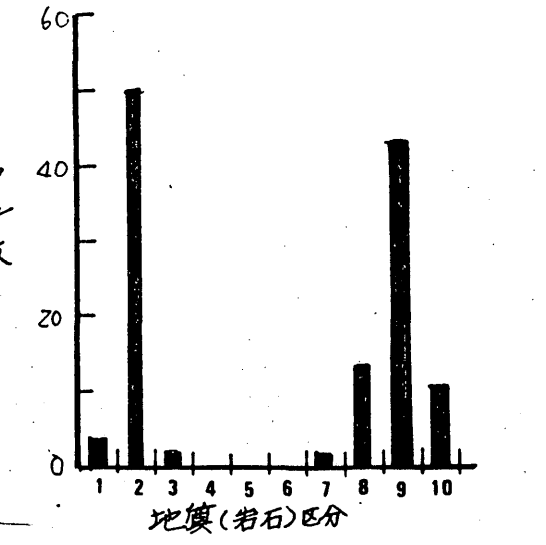
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61700A	ウバメガシ群落	122	和歌山, 徳島, 香川, 愛媛, 鹿児島
61700B	マルバニッケイ群落	0	長崎
61700C	モツクバヤ群落	3	長崎
	計	125	

\* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより各群落

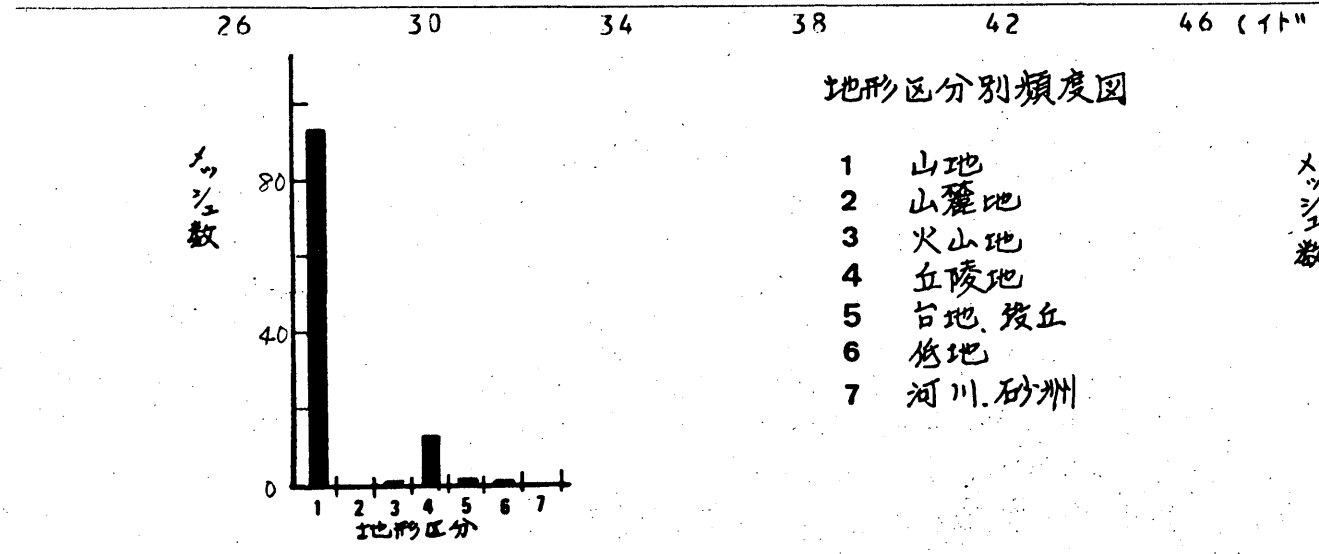




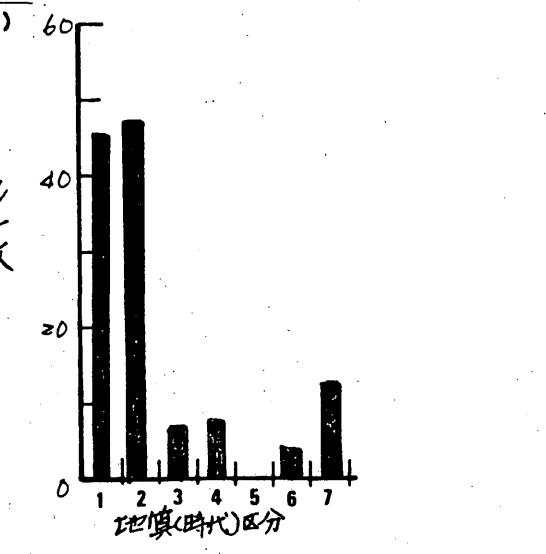
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他



- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他



ウバメガシ-トベラ群集 *Pittosporo-Quercetum phillyraeoidetis*

〈相観〉 常緑広葉樹の低木林, 亜高木林

〈生育地〉 温暖な地域の海岸で, 基岩の露出した断崖・岩礫地に生育している。風衝が強く乾燥する立地である。

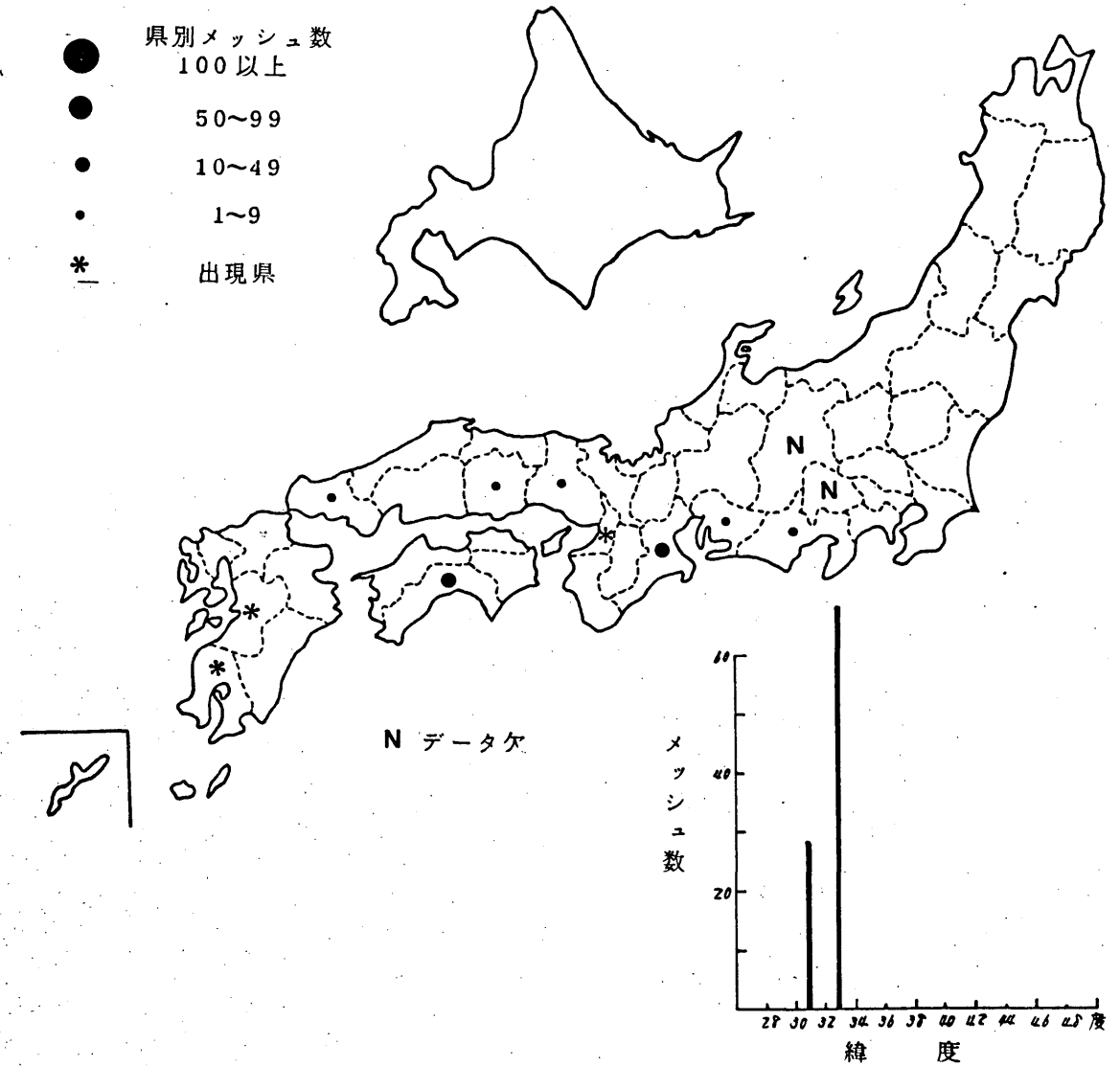
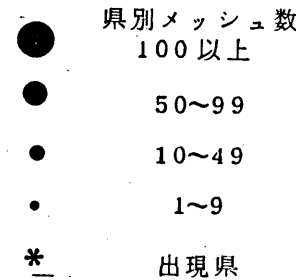
〈種組成〉 上層にはウバメガシが優勢し, トベラ, マルバシロソノバ, ハマヒサカキ, ネズミナシなどが混成している。下層にはツツキ, オニヤシロソノバ, ヒトツバなどの常緑植物が多く出現している。

〈群落の特徴〉 海岸風衝地の自然生体木林で, 土地的植物林のひとつである。しばしば上層にぬきでたクマツヒともない, 相観上クマツヒ林の様相を呈することもある。群落標徴種はウバメガシで, 区別種としてトベラ, マルバシロソノバ, ヒトツバ, コバノツツミなどがあげられる。マサキ-トベラ群集とは, 組成上の類似が認められ, 土地条件により, マサキ-トベラ群集に置きかわる。

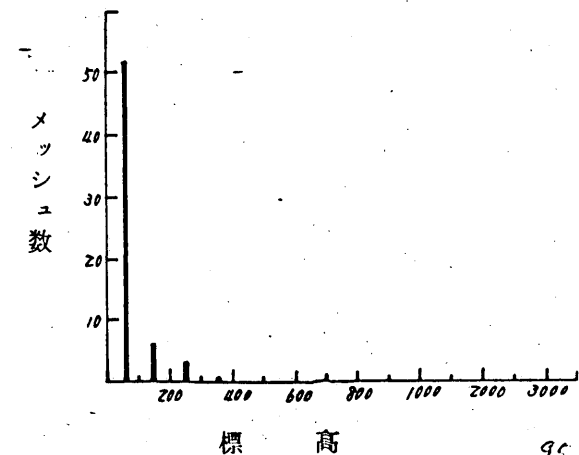
〈分布〉 伊豆半島以西の太平洋岸, 四国, 九州に分布する (宮脇ら1978)。

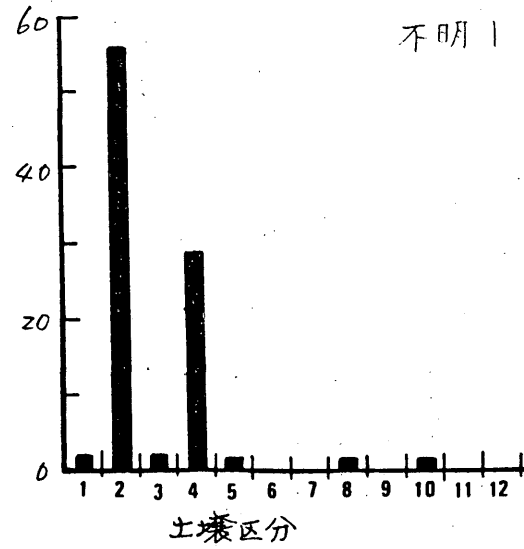
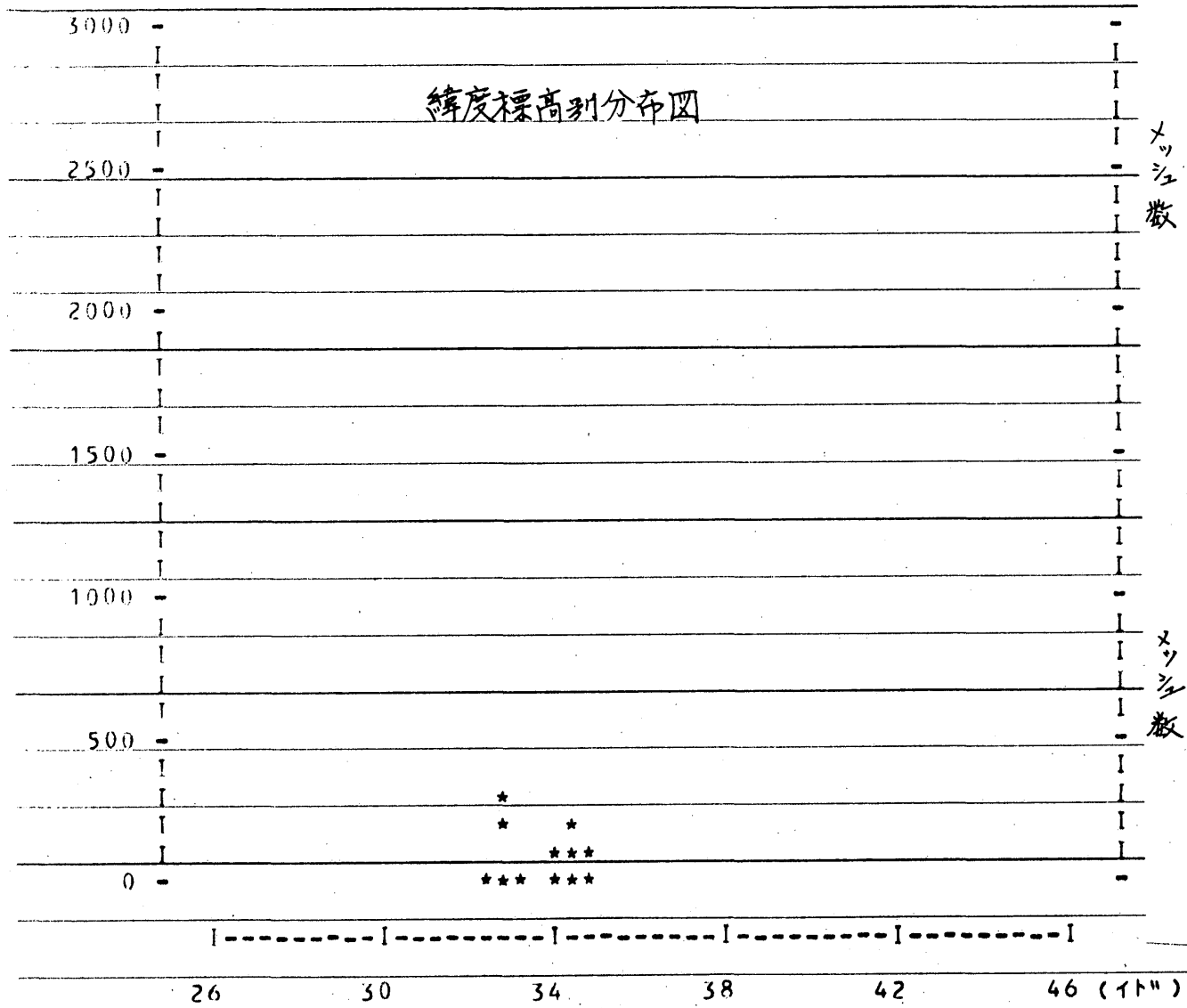
〈その他〉 鈴木・蜂屋(1951)により, 伊豆半島で認知され, その後伊豆半島以西の各地から報告されている。特に九州地方からの報告が多く, 群集としての分布の中心は西南日本にあると考えられる。

\*61701 ウバメガシ-トベラ群落



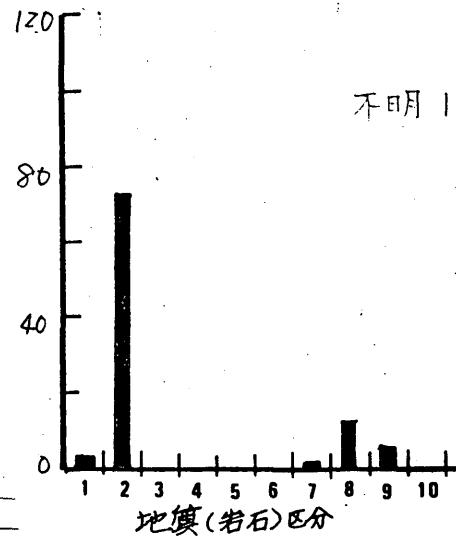
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61701A	ウバメガシ-トベラ群集	105	静岡, 愛知, 三重, 大阪, 兵庫, 岡山, 山口, 高知, 熊本, 鹿児島
61701B	トベラ-ウバメガシ群集	-	
	計	105	





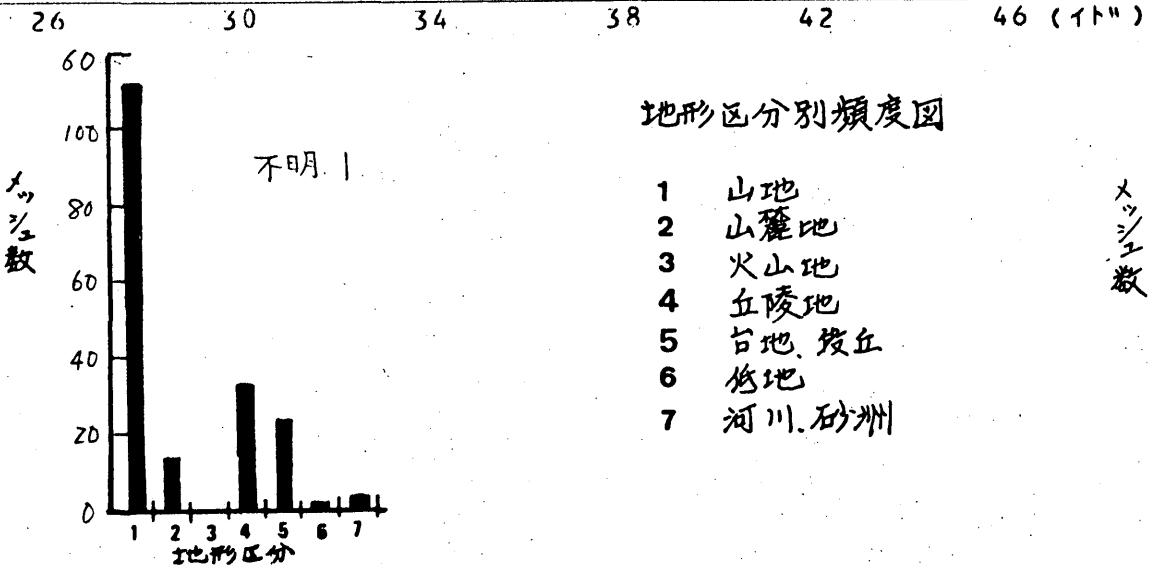
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



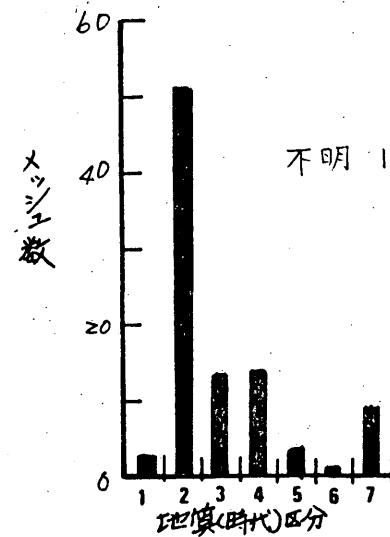
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

〈相観〉 常緑広葉樹の低木林、亜高木林。林冠は密に茂り、強風の影響を受け刈り込まれたような外観を呈する。しばしば高木層にぬきこんでフロマツともなる。

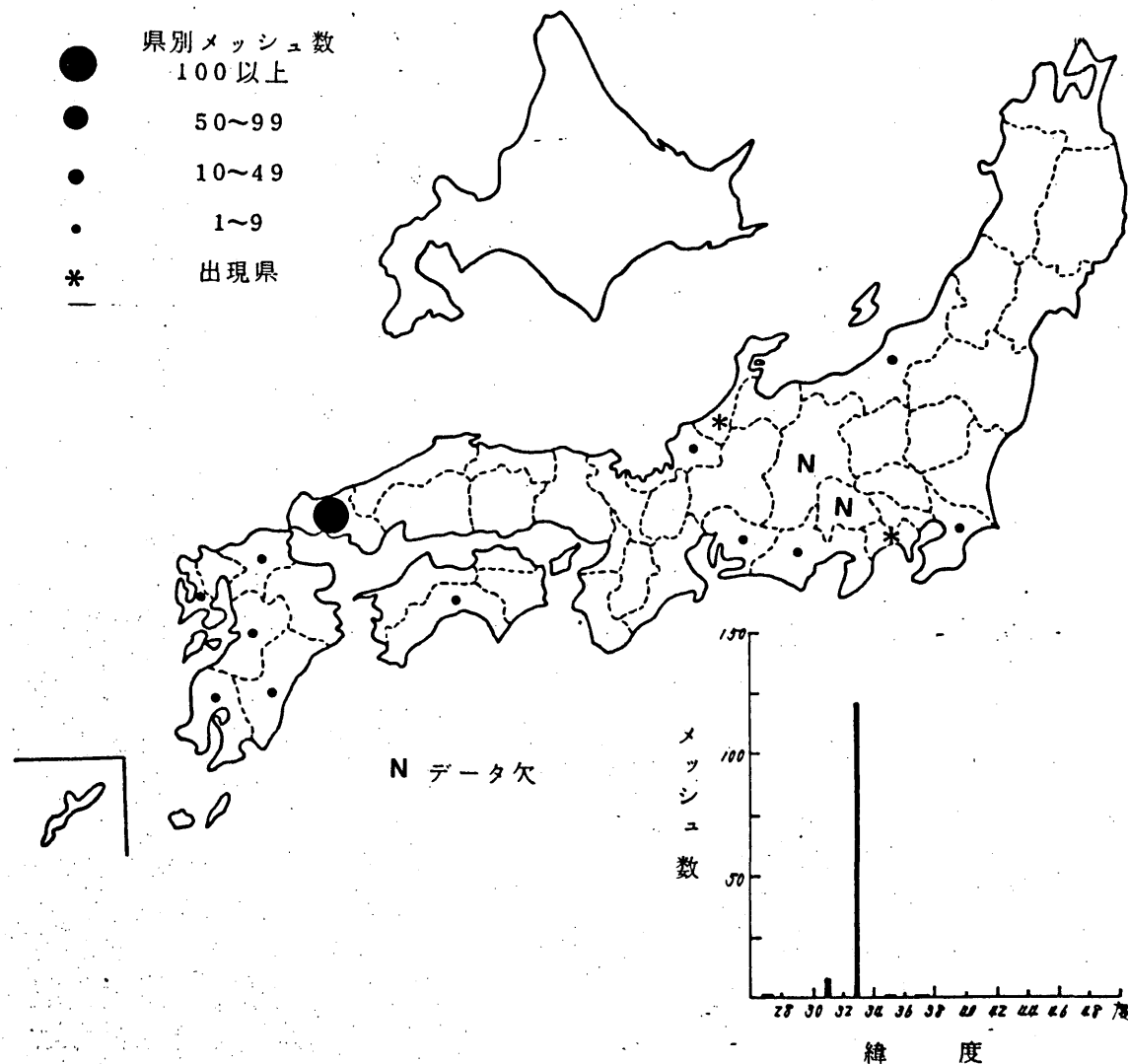
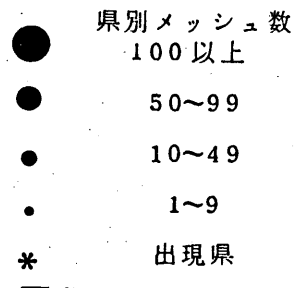
〈生育地〉 海岸風衝地の急斜面、断崖地などに生育している。ウバメガシートベラ群集に比べ、表層土のわずかに堆積した立地にみられる。砂浜海岸では砂丘植生の後方に帯状にみられる場合がある。

〈種組成〉 マサキ、トベラ、マルバシマリンバイ、ハマヒササキなどが林冠を形成し、ネズミモチ、ナワシログミなどが混生することもある。下層にはオニヤブソテツ、ツワブキ、コバノタツナミなどが多く出現する。

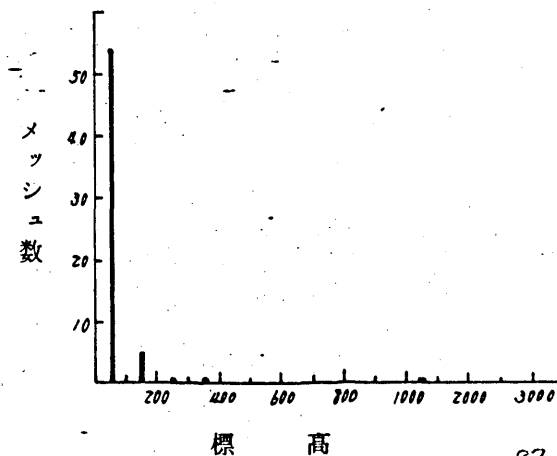
〈群落の特徴〉 海岸風衝地の自然生低木林である。標徴種、区分種としてマサキ、トベラ、ツワブキ、オニヤブソテツ、マルバシマリンバイ、イヌビフ、マルバグミなどがあげられている(宮脇ら 1978)

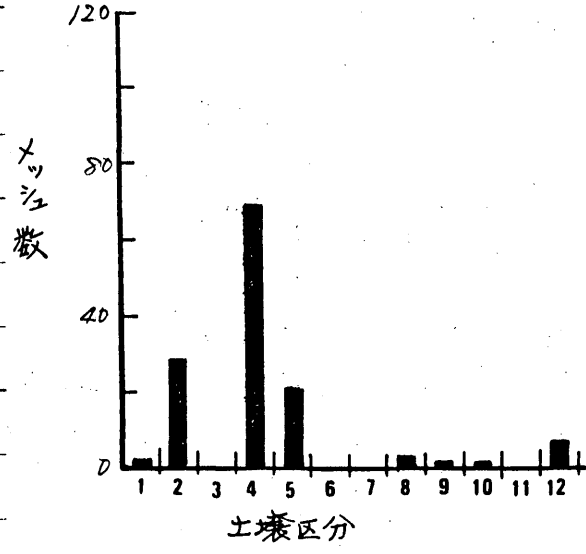
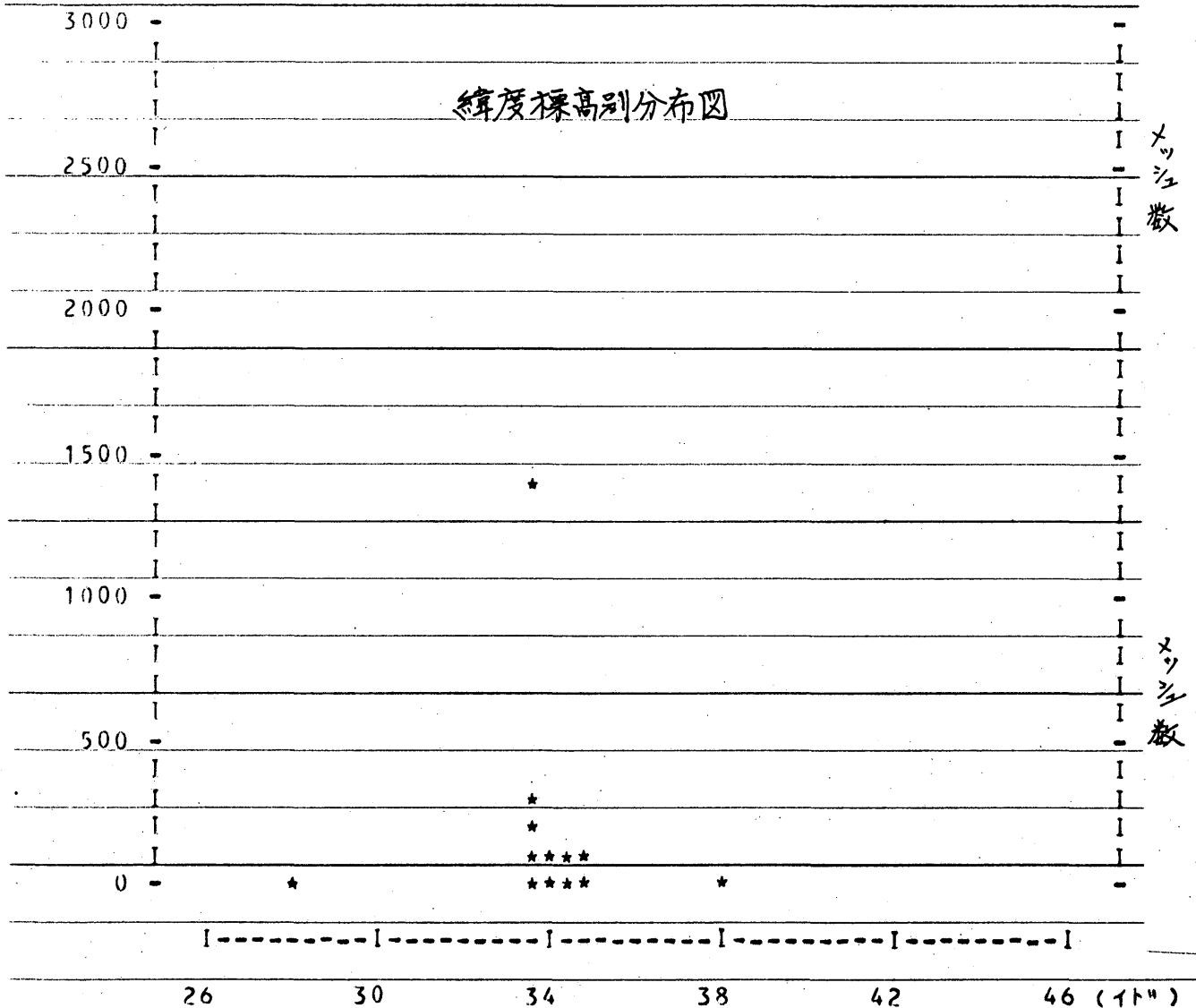
〈分布〉 関東、北陸から九州まで各地から報告されている。ウバメガシートベラ群集がウバメガシの生育可能な伊豆半島以西の温暖地に限られるのに対し、マサキートベラ群集はより広い分布域を有している。

\*61702 マサキートベラ群集

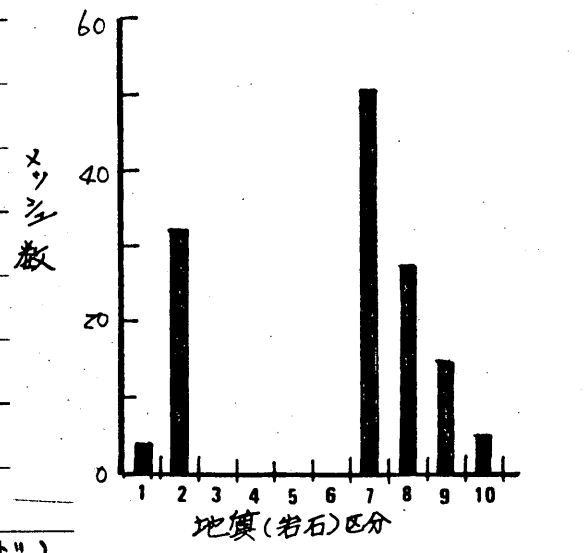


コード	群落名	メッシュ数	出現県
61702A	マサキートベラ群集	136	神奈川, 新潟, 福井, 静岡, 愛知, 山口, 福岡, 長崎, 熊本, 宮崎, 鹿児島
61702B	トベラマサキ群集	2	千葉, 高知
61702C	フロマツトベラ群落	0	石川
	計	138	

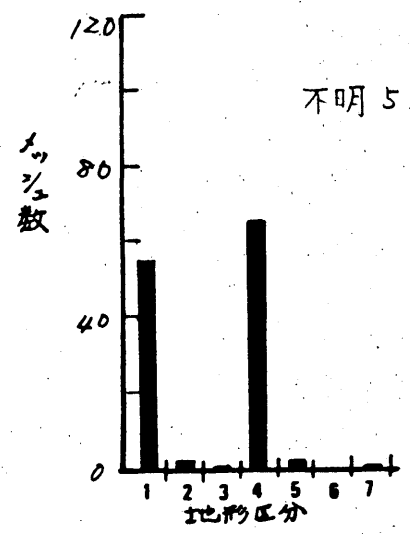




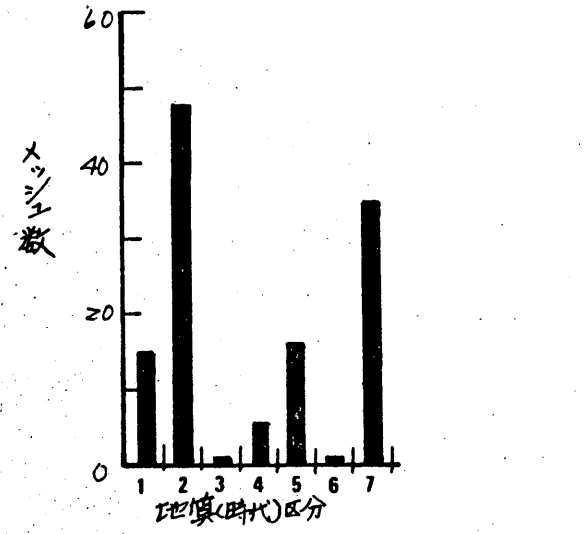
- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他



- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの



- 地形区分別頻度図
- 1 山地
  - 2 山麓地
  - 3 火山地
  - 4 丘陵地
  - 5 台地, 緩丘
  - 6 低地
  - 7 河川, 砂州



- 地質(時代)区分別頻度図
- 1 古生代
  - 2 中生代
  - 3 古第三紀
  - 4 新第三紀
  - 5 洪積世
  - 6 沖積世
  - 7 その他

不明 5

オニヤブソテツ-ハマビワ群集 *Crytomio-Litseaetum japonicae*

<相観> 常緑広葉樹の低木林, 亜高木林

<生育地> 海岸風衝地の斜面や断崖で比較的表層土が厚く、空中湿度の高いところに発達している。

<種組成> 上層は、ハマビワ、トベラ、ハマヒサカキ、シャリコバイ、モクイチバナ、ネズミモチなどに  
よって構成されるがたいてい一種が優占することも多い。下層には、オニヤブソテツ、フウトウ  
カズラ、ノシラン、ツツブキなどが生育している。

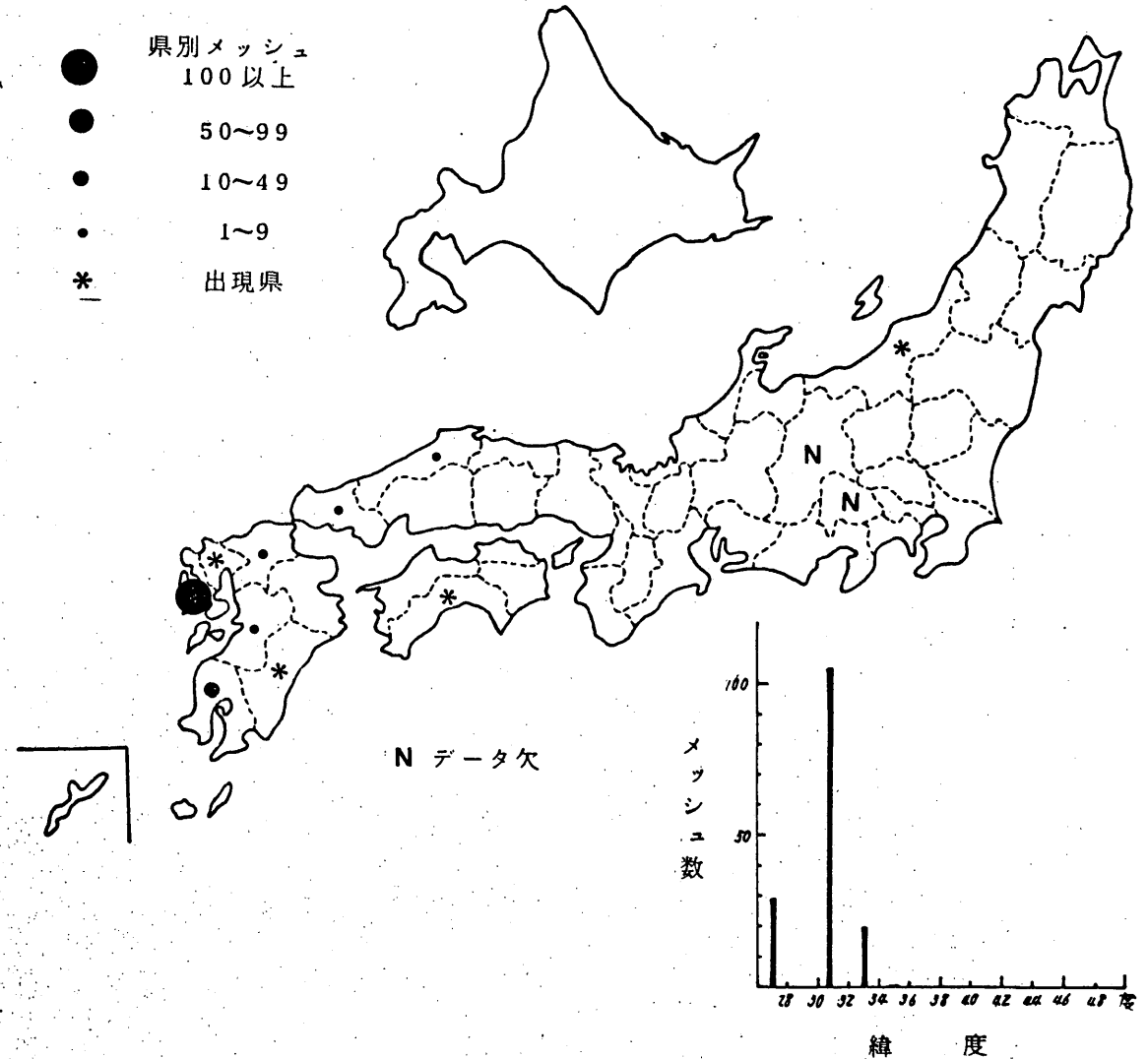
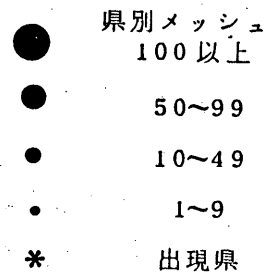
<群落の特徴> 海岸風衝地の自然生低木林である。標徴種および区別種  
としては、ハマビワ、オムラサキシキブ、サツマサンキライ、ハマヒサカキなどがあげられて  
いる。(宮脇ら 1978)。種組成は単純で、マサキ-トベラ群集と共通のものが  
多い。

マサキトベラ群集の内陸側にみられることが多い。

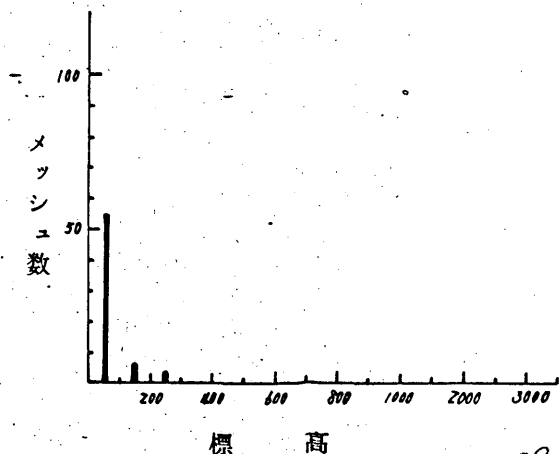
<分布> 九州地方に多く分布している。

<その他> 九州南部の日置海岸で須股、真柴、鈴木 (1969) によって命名  
された群集である。

\*61703 オニヤブソテツ-ハマビワ群集



コード	群落名	メッシュ数	出現県
61703A	オニヤブソテツ-ハマビワ群集	47	新潟, 島根, 山口, 福岡, 佐賀, 熊本, 宮崎, 鹿児島
61703B	ハマビワ-オニヤブソテツ群集	107	高知, 長崎
	計	154	

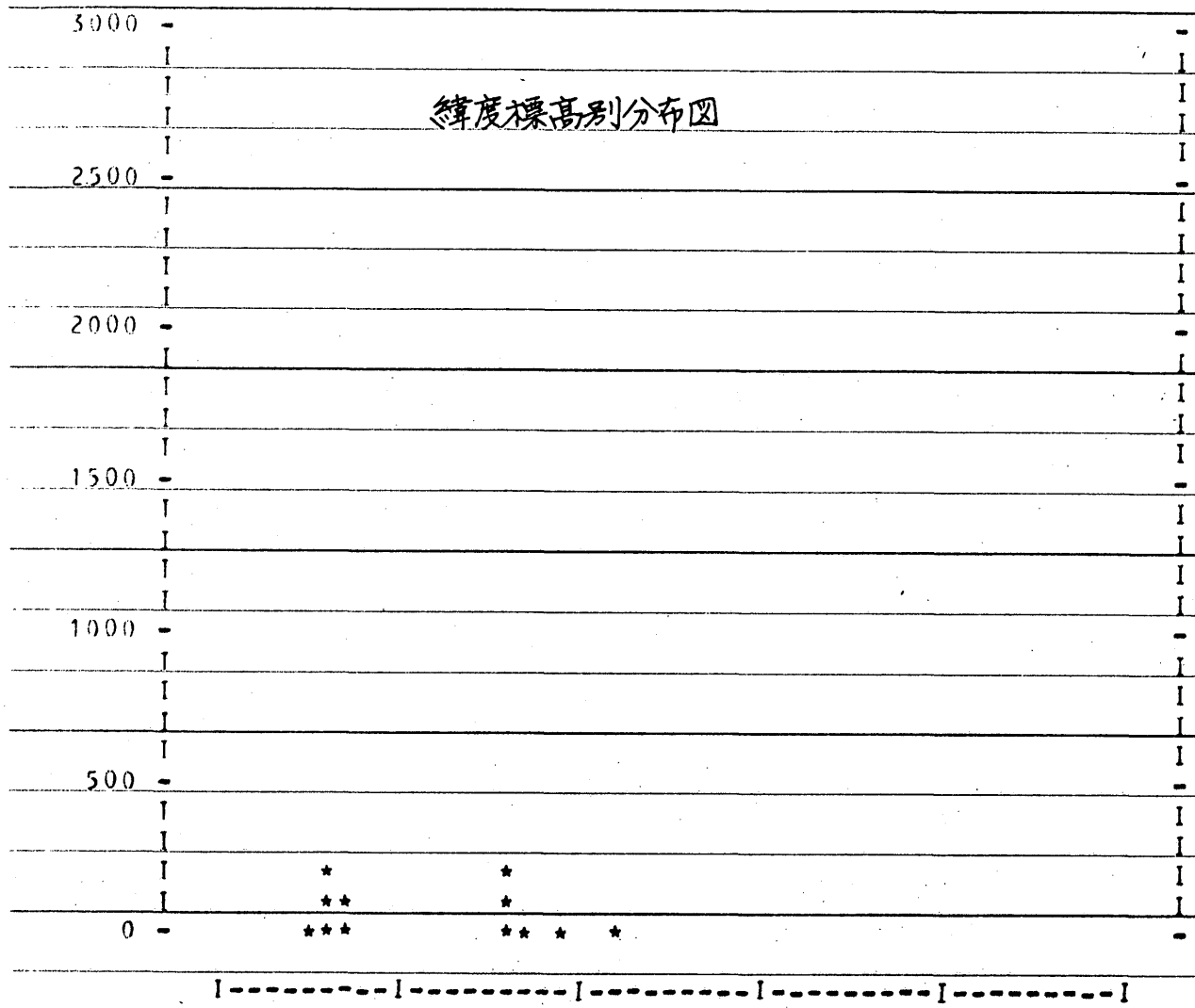


(ヒヨウカ)

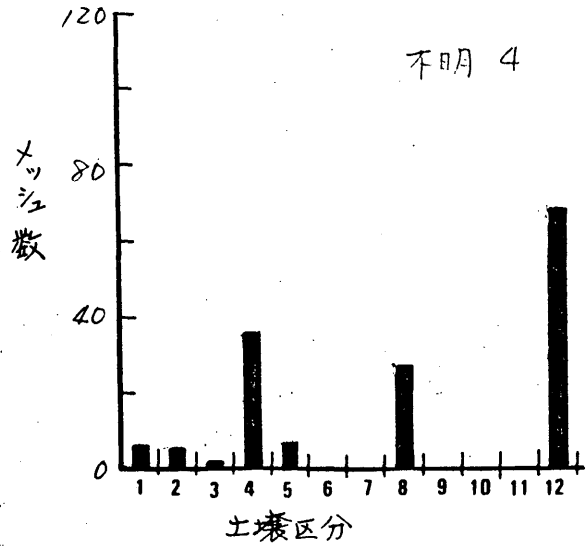
# オニヤブソテツ-ハマビワ群集

( \*61703 )

### 緯度標高別分布図

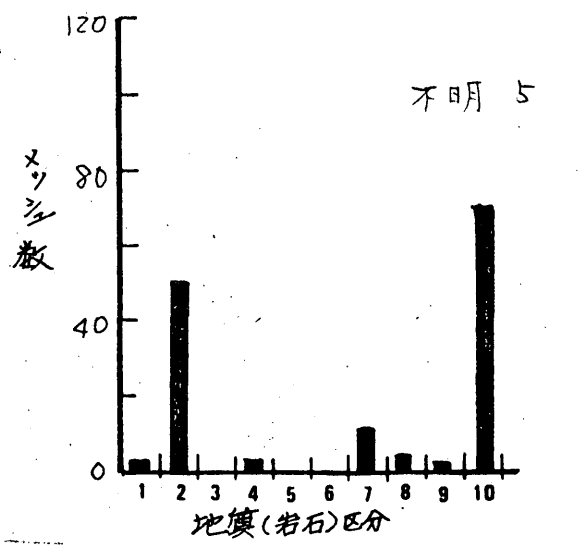


### 土壌区分別頻度図



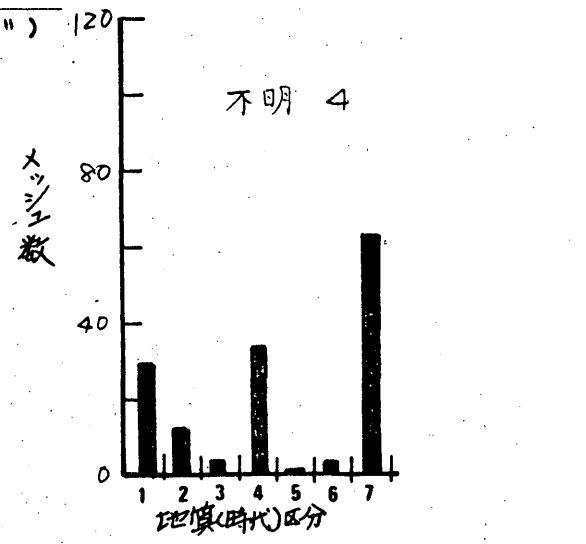
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老成土
- 12 その他

### 地質(岩石)区分別頻度図



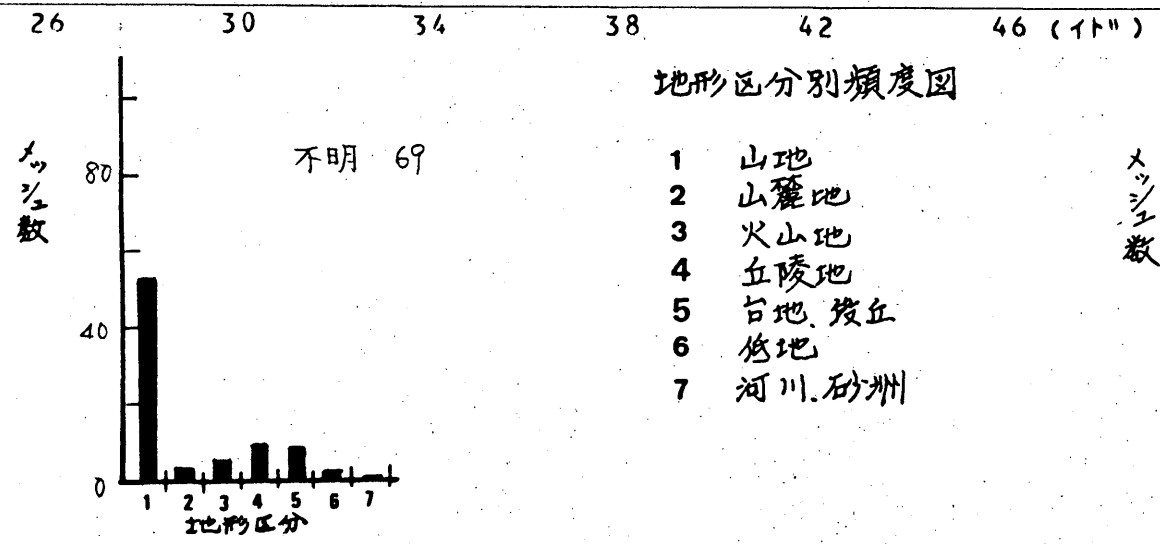
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

### 地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

### 地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

アカマツ群落 Pinus densiflora Community

<相 観> 常緑針葉樹の亜高木林, 高木林.

<生育地> 山地のやせ尾根, 岩角地など, 乾性で貧養な瘠悪地に成立している。

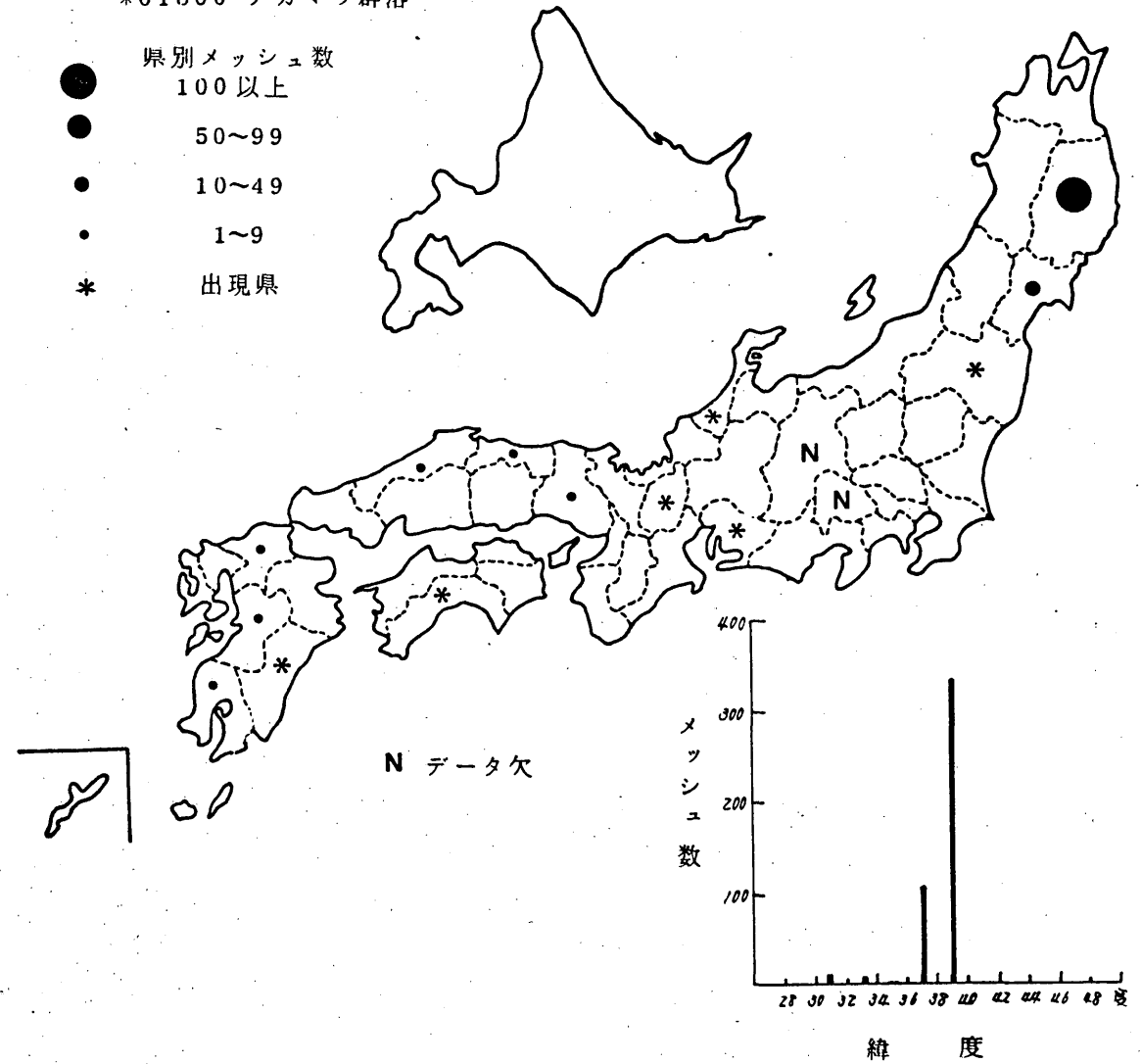
<種組成> 高木層にはアカマツが優占している。亜高木層, 低木層の構成種は地域によりさまざまであるが, 乾性地を指標するツツジ科植物が多い。草本層は貧弱で, 数種がまばらに生育している。ハナゴケなどの乾性地の林床に特有な地衣類の生育もみられる。

<群落の特徴> アカマツ群落はヤブツバキクラス域からブナクラス域へかけての広い地域にわたって, 土地的極相として出現している。劣悪な生育環境下にあるためしばしばアカマツの矮性林として成立している。群落規模は一般に小さい。組成的にはアカマツの代償林とほとんどかわらず, 自然林か代償林か判別がむずかしいものも多い。ここではヤブツバキクラス域のアカマツ自然林をとりあげた。

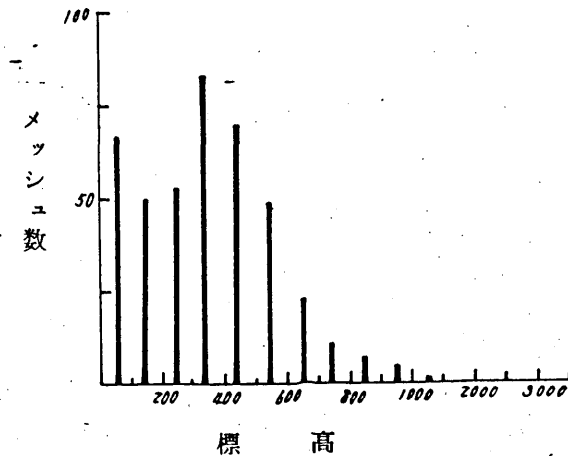
<分 布> ヤブツバキクラス域に広く分布している。

\*61800 アカマツ群落

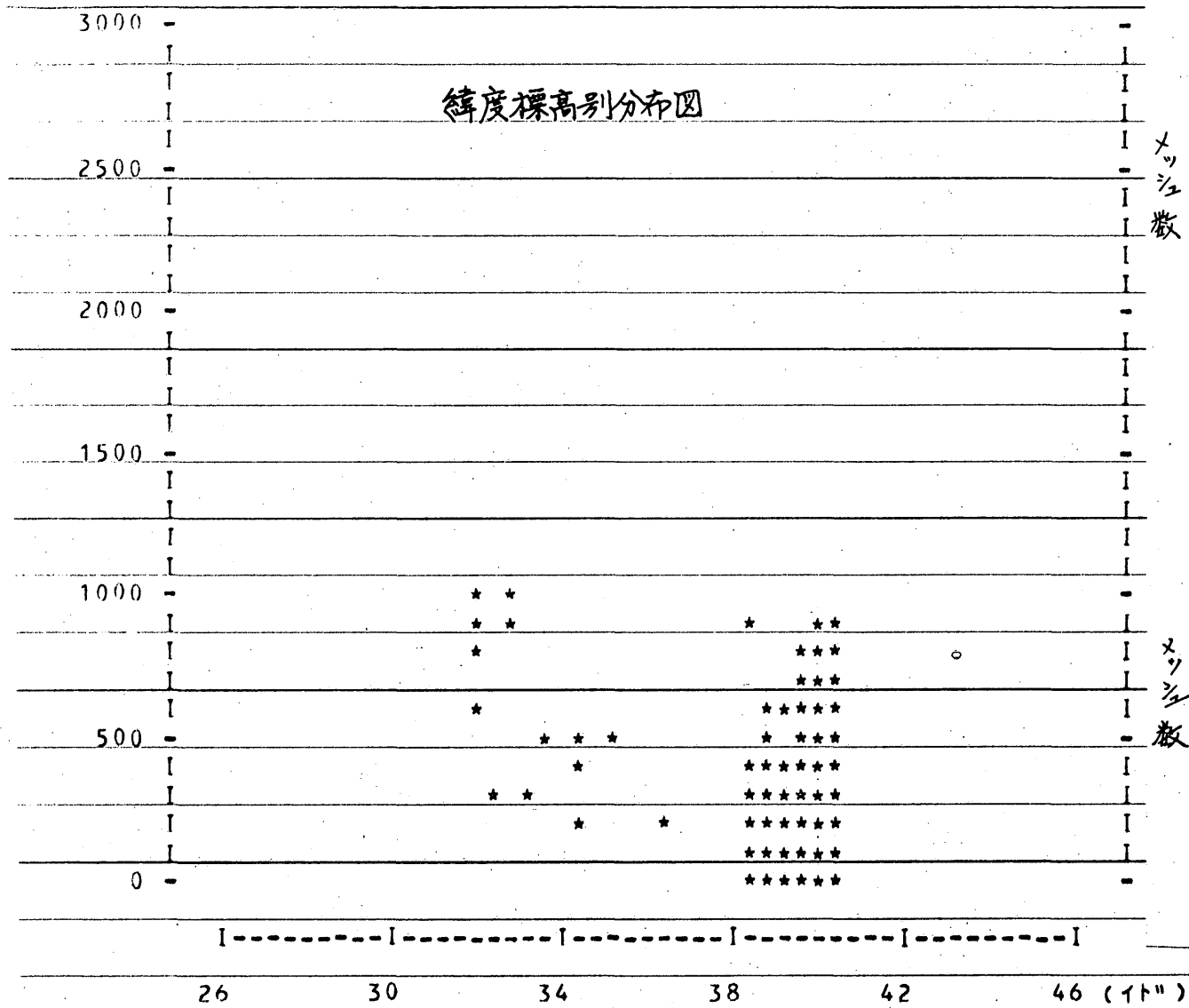
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



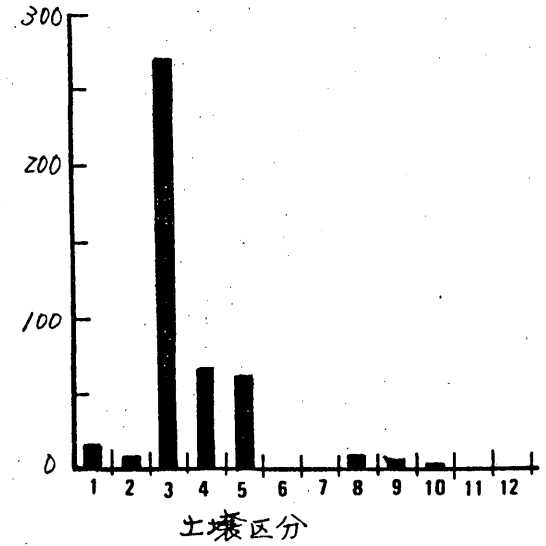
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61800A	アカマツ群落	454	岩手, 宮城, 福島, 石川, 愛知, 兵庫, 鳥取, 島根, 高知, 福岡, 熊本, 宮崎, 鹿児島
61800B	アカマツ-イソノキ群落	0	滋賀
	計	454	



緯度標高別分布図

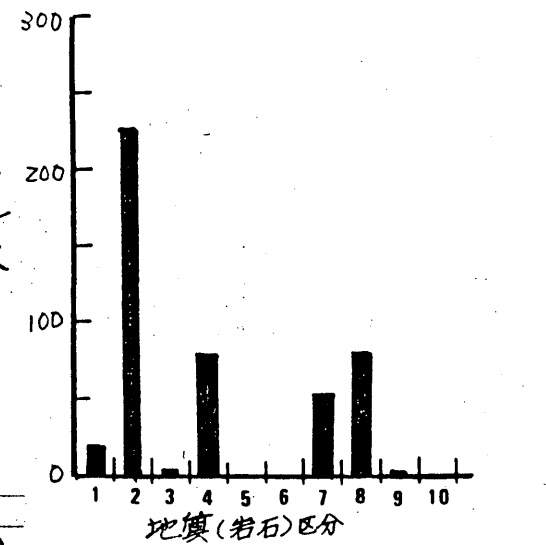


土壌区分別頻度図



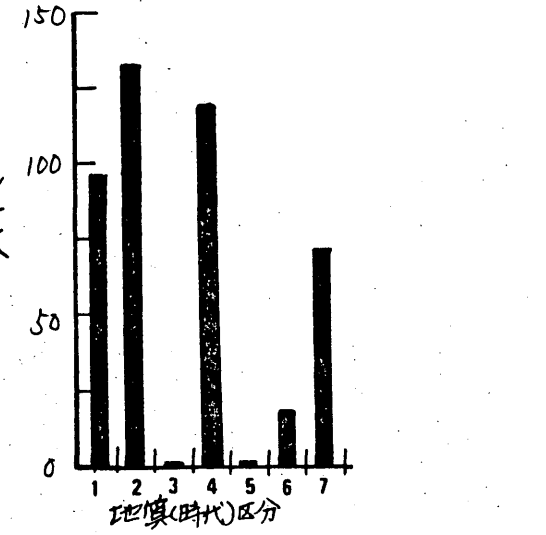
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



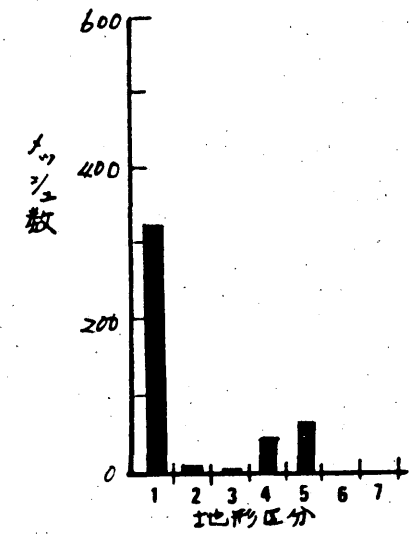
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 修地
- 7 河川, 砂洲



クロマツ群落

*Pinus thunbergii* Community

<相観> 常緑針葉樹の高木林、亜高木林、3~4層構造

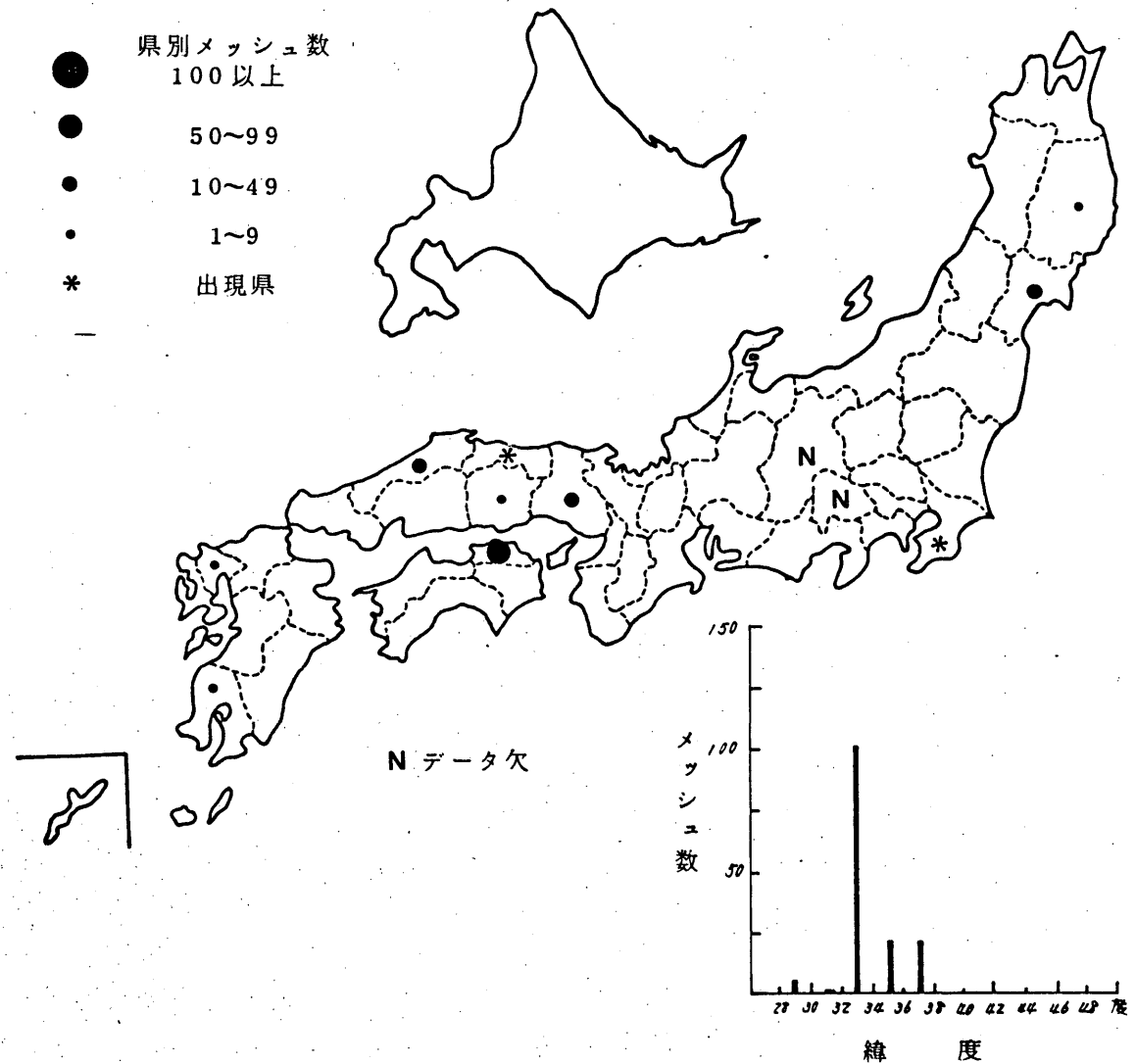
<生育地> ヤブツバキクラス域の海岸近くの乾性地に生育している。海岸砂丘の後背地、丘陵の浅土地、岩角地などに多くみられる。

<種組成> 高木層にはほとんどクロマツ一種が優占するが、やや内陸部ではアカマツとの混交林を形成することもある。亜高木層はアケビが多く、低木層にはトベラ、ヒサカキ、ネズミモチが多く出現するほか、ヤマツツジ、ネジキ、ナツハシ"など、ツツジ科植物や西日本ではクロキ、シャジャンボ、シロモなど常緑植物も多く生育する。草本層には砂丘後背地では海浜植物が生育し、スキ、アキノリソウ、フラビなどスキ草原の構成種も全般的によくみられる。西日本ではコシダが優占している林分もある。

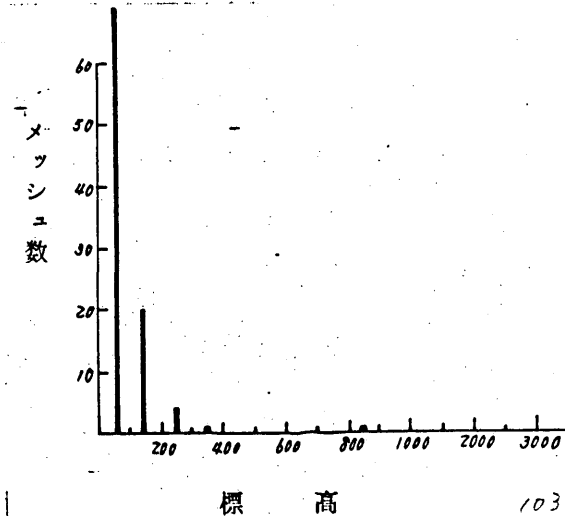
<群落の特徴> 海岸近くに成立するクロマツの二次林である。海岸部のクロマツ林から内陸部のアカマツ林へは漸変するので、境界線を引くことは困難な場合が多い。やや内陸部のクロマツ林とアカマツ林では優占種の相違だけで組成的にほとんど変わらない。海岸近くのクロマツ林では、人為的干渉が軽度であれば、海岸風衝低木林の構成要素が強くは入り込んでくる。しかしクロマツ群落は独自の標徴種に乏しく、クロマツ植林とも判別はむずかしい。

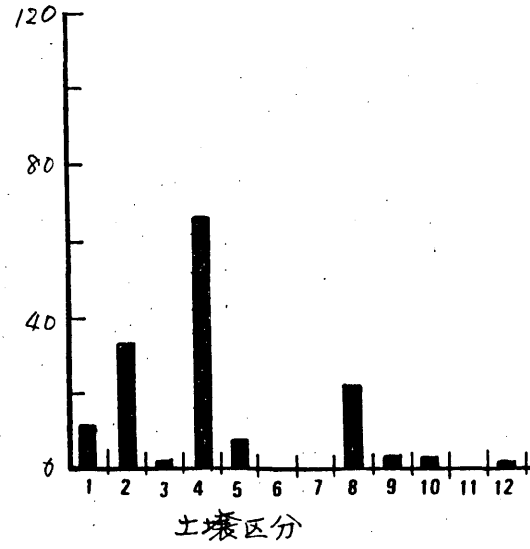
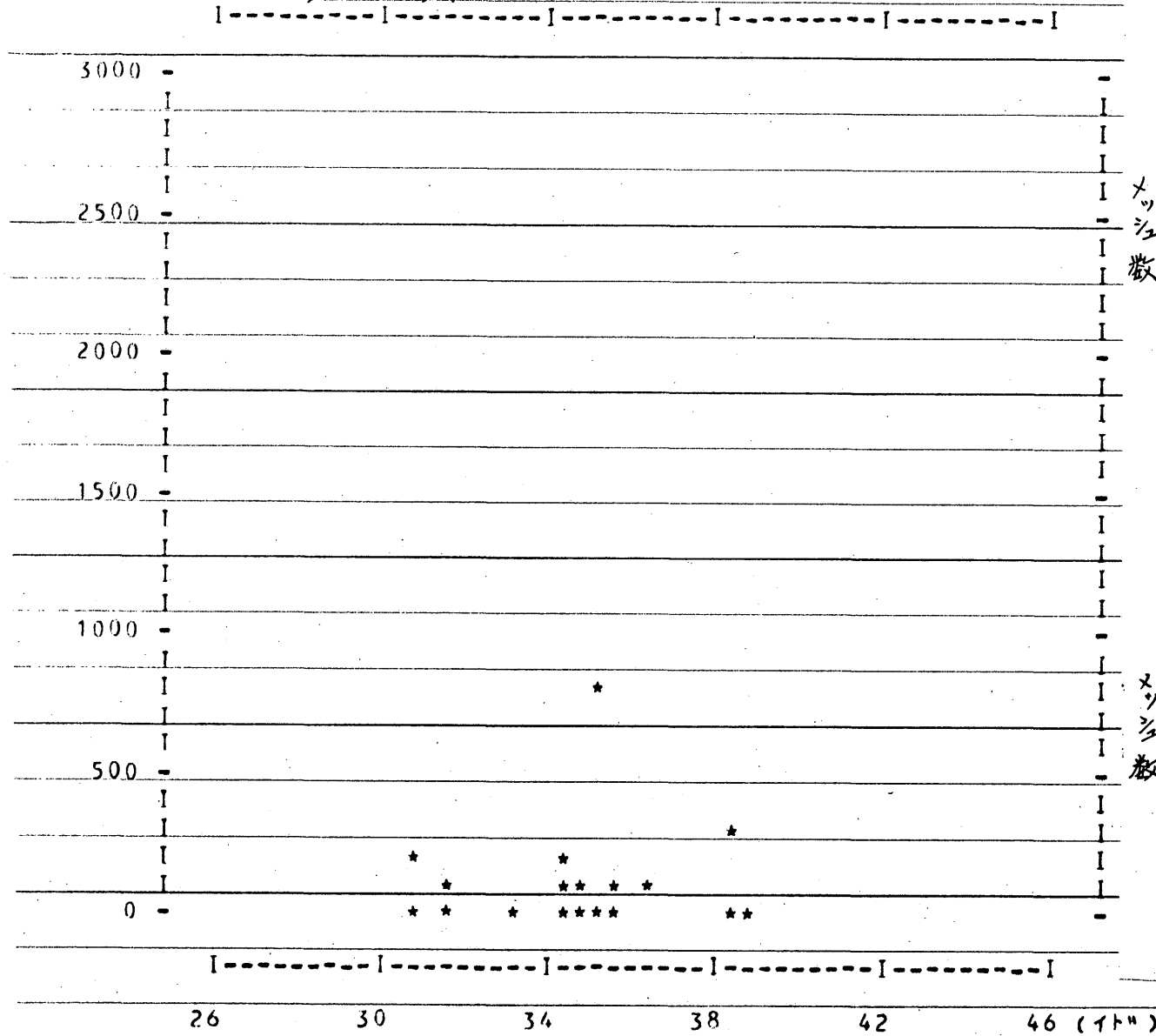
\*61900 クロマツ群落

- 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- \* 出現県



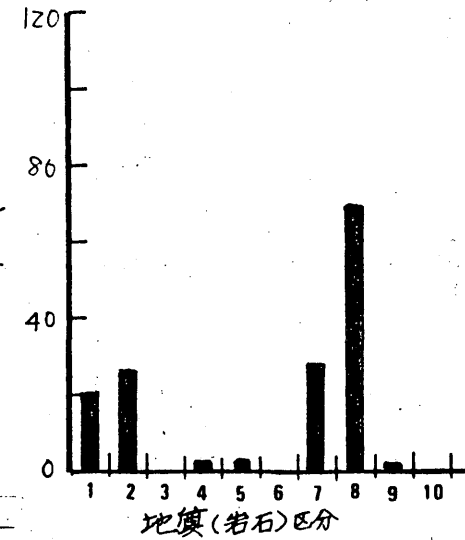
コード	群落名	メッシュ数	出現県
61900A	クロマツ群落	152	岩手、宮城、千葉、兵庫、鳥取、島根、岡山、香川、佐賀、鹿児島
61900B	クロマツ林	-	
	計	152	





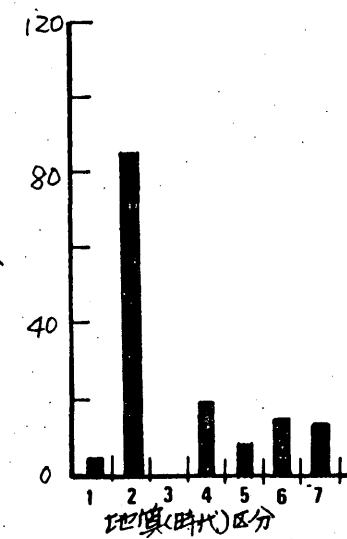
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 老成土
- 12 その他



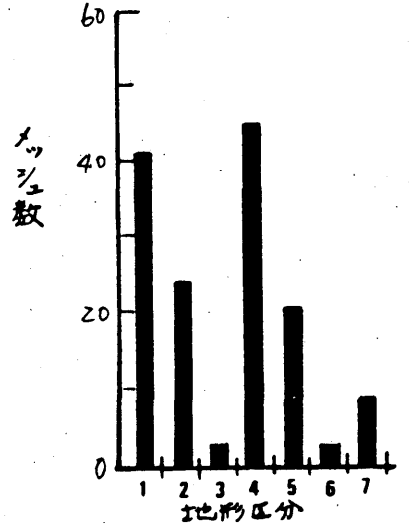
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

リュウキュウマツ群落 Pinus lutchuensis Community

<相観> 常緑針葉樹の亜高木林, 高木林

<生育地> 母岩に関係なく低地から山地にかけて発達している。

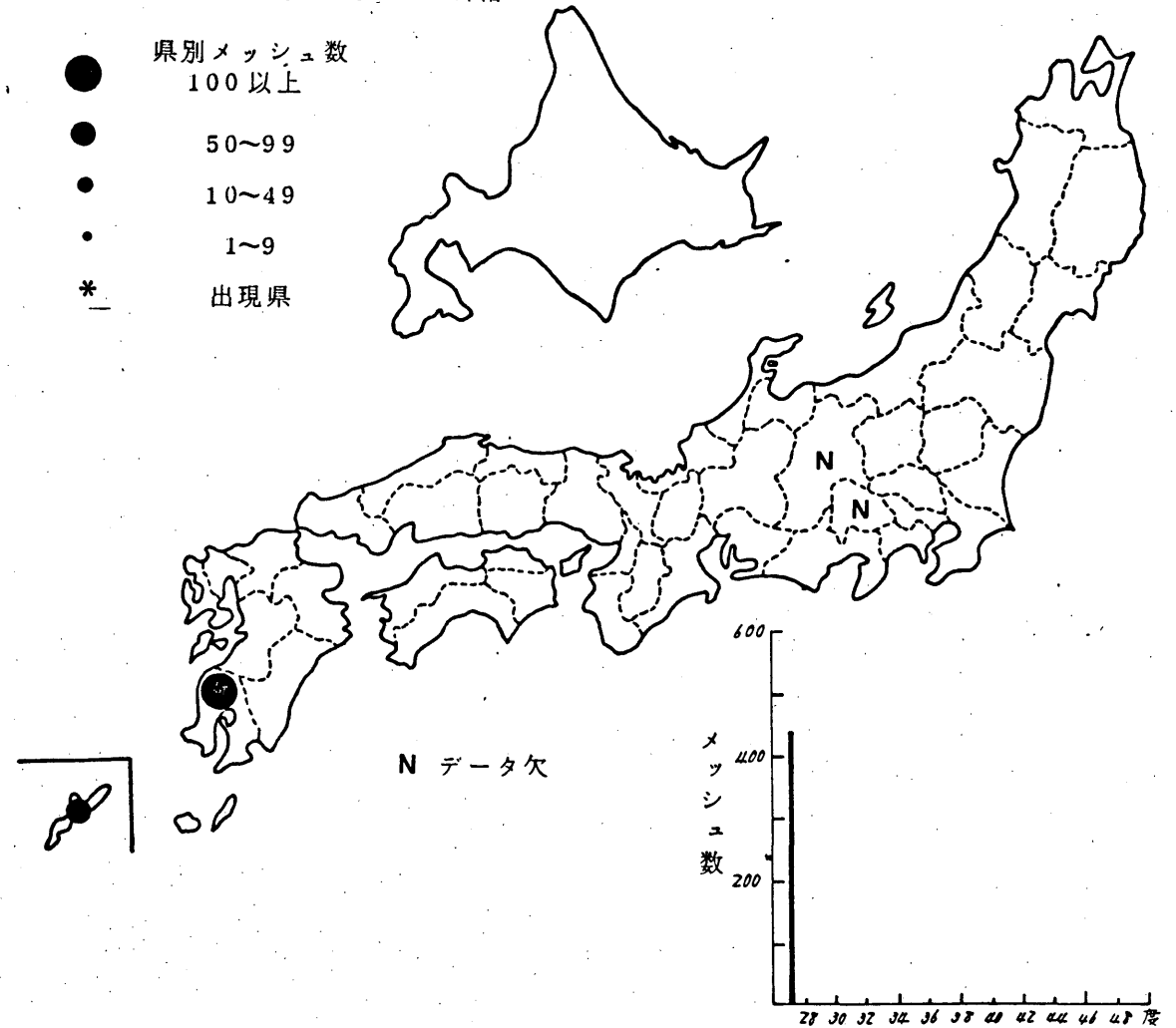
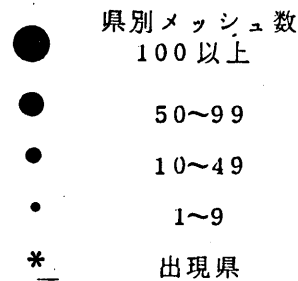
<種組成> 高木層にはリュウキュウマツが優占し, 亜高木層にはオキナフサザシ、イシバニッケイ、ヒメスズリハなどがみられ, 低木層にはオキナフサザシ、ヒカキ、リュウキュウチヌアデクなどが生育している。草本層にはコシタが優占するヒが多い。

<群落の特徴> 亜熱帯性の常緑針葉樹林で, 林内には亜熱帯性植物が繁茂している。

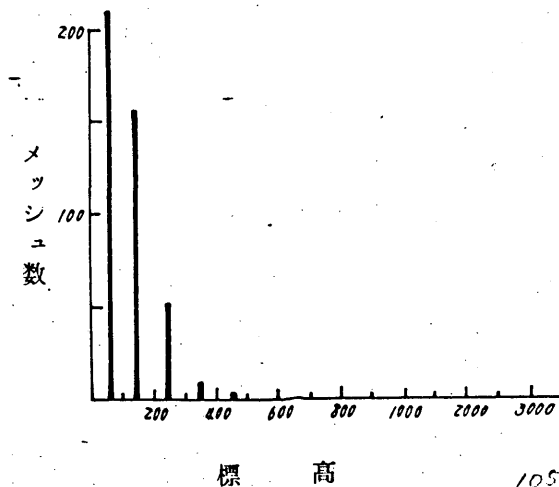
<分布> 沖縄県に固有である。

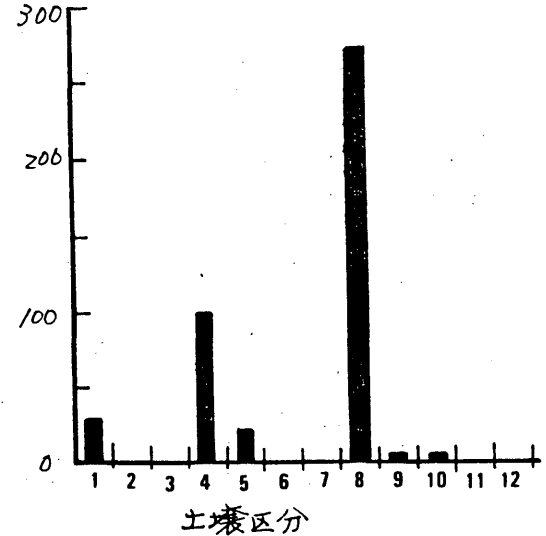
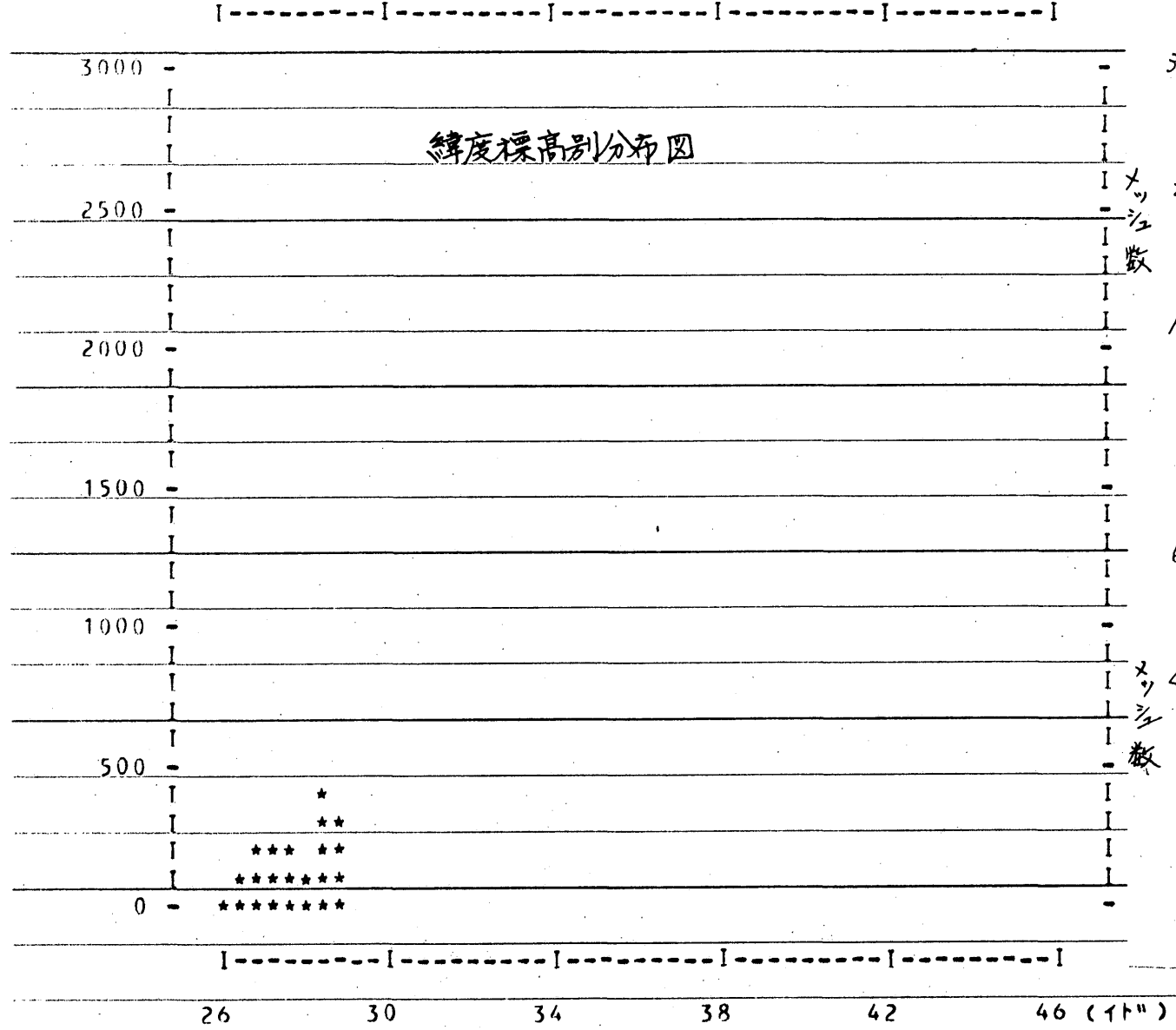
<その他> リュウキュウマツは, 先駆的に群落を形成しやすく, リュウキュウマツ群落の中には代償植生であると考えられるものもある。群落の形態, 構造, 種組成は立地の相違や発達段階によりかなりの差がみられ, さらに母岩の相違による出現種の差も大きい。

\*63200 リュウキュウマツ群落

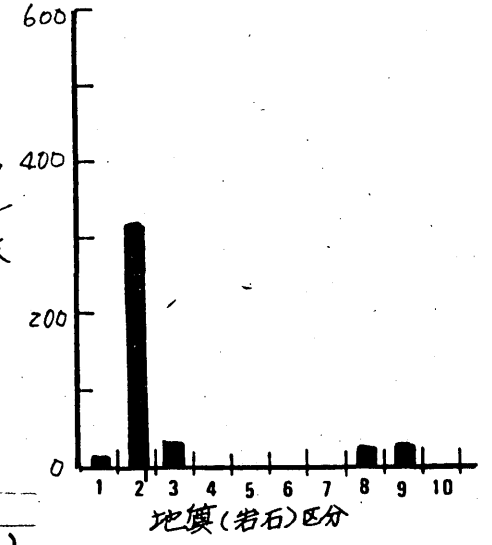


コード	群落名	メッシュ数	出現県
63200	リュウキュウマツ群落	439	鹿児島, 沖縄
	計	439	

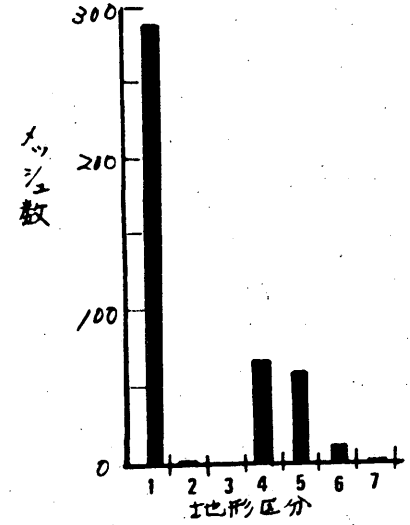




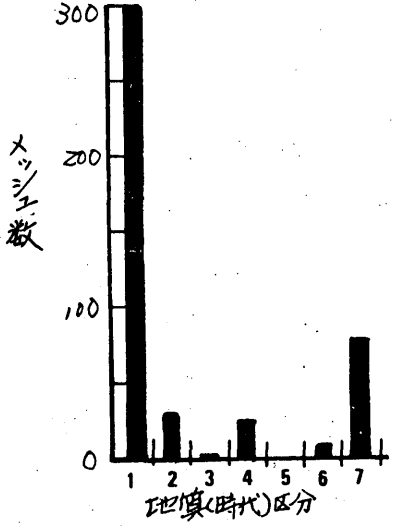
- 土壌区分別頻度図
- 1 岩屑土
  - 2 未熟土
  - 3 黒ボク土
  - 4 乾性褐色森林土
  - 5 褐色森林土
  - 6 湿性褐色森林土
  - 7 ホドソル
  - 8 赤黄色土
  - 9 低地土
  - 10 グライ土
  - 11 泥炭土
  - 12 その他



- 地質(岩石)区分別頻度図
- 1 未固結堆積物
  - 2 固結堆積物
  - 3 石灰岩
  - 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
  - 5 シラス
  - 6 ローム
  - 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
  - 8 深成岩
  - 9 変成岩
  - 10 表示のないもの



- 地形区分別頻度図
- 1 山地
  - 2 山麓地
  - 3 火山地
  - 4 丘陵地
  - 5 台地、残丘
  - 6 低地
  - 7 河川、砂洲

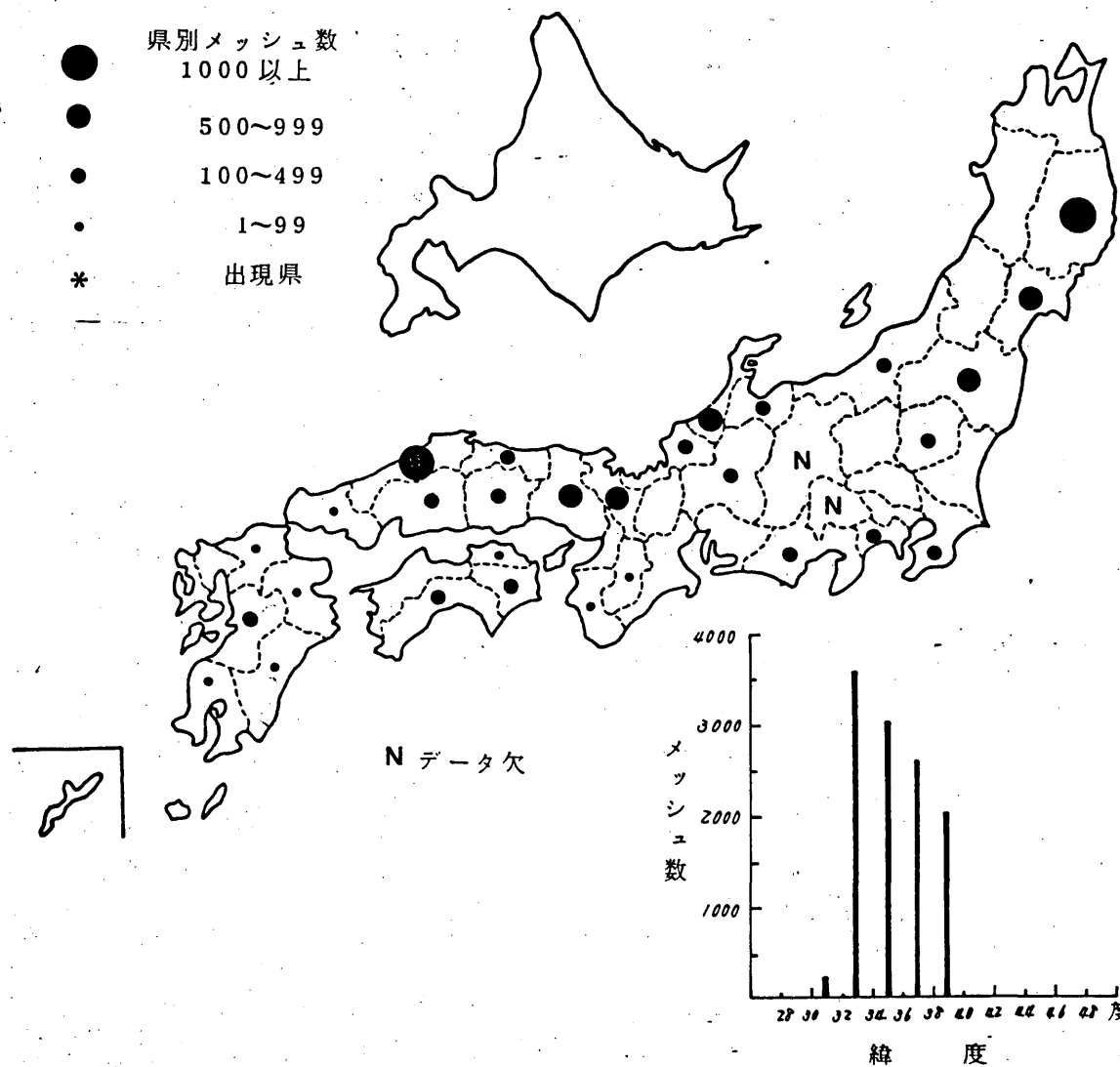
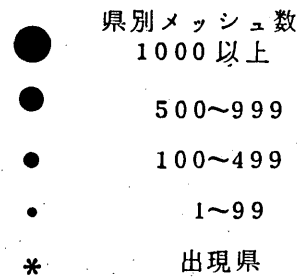


- 地質(時代)区分別頻度図
- 1 古生代
  - 2 中生代
  - 3 古第三紀
  - 4 新第三紀
  - 5 洪積世
  - 6 沖積世
  - 7 その他

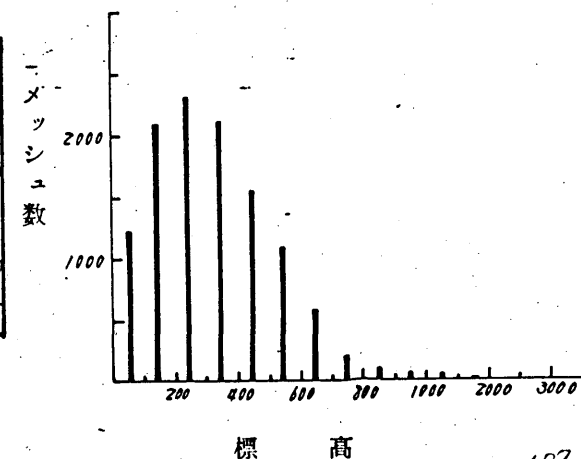
〈相観〉 落葉広葉樹。高木林、亜高木林。3〜4層構造。  
 〈生育地〉 ヤブツバキクラス域の丘陵から低山帯にかけ、広く生育している。立地の適応範囲は比較的広く、乾性地からやや湿性地まで、土壌の発達のないところから悪いところまでみられるが、極めて乾性の尾根筋や露岩地にはアカマツ林が成立している。  
 〈種組成〉 高木層にはコナラが優占し、クリ、ヤマザクラ、リョウブ、エゴノキなどが混生する。東北、北陸地方では、その他、落葉樹が多く混生し林冠は落葉樹によって構成されることが多い。西日本の温暖地では、アラカシ、ヤブツバキ、ネズミモチなどの常緑樹をまじえ、瀬戸内海沿岸地域ではアベマキの多層林もある。低木層や草本層の構成種も地域や立地によりさまざまであるが、北の地方では落葉樹が多く、南の地方では常緑性の植物が多くなる。  
 〈群落の特徴〉 コナラ林はアカマツ林と並び代表的な二次林であり、古くから薪炭林として利用されてきた。15〜20年間隔で伐採され、萌芽更新によって維持されてきたが、近年人為の影響が減り、遷移の進行しているものが多い。コナラ林の組成は地域や立地によりさまざまであり、群集レベルの決定がなかなか困難なのが現状である。コナラ群落は、クヌギ-コナラ群集、コナラ-オニシバリ群集、コナラ-リリ群集などに同定されるものや、性格は、よりしなやかな一括している。ヤブツバキクラス域上部のコナラ林の一部はコナラ-クリ群落として分けられており、クヌギを多く含むものは、クヌギ-コナラ群集として分けられている。  
 〈分布〉 東北から九州まで広く分布している。

Ⅶ ヤブツバキクラス域代償植生

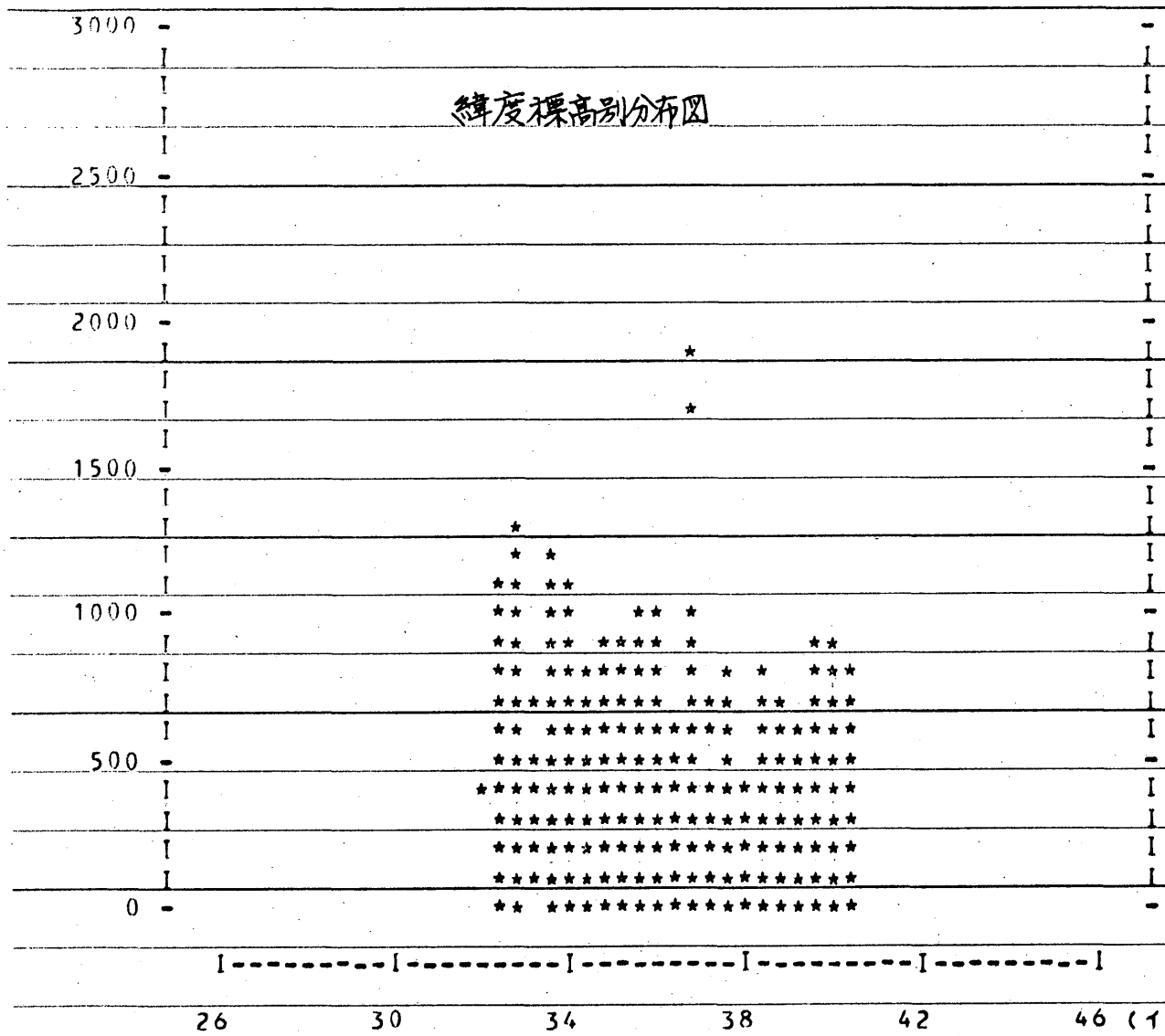
\*70100 コナラ群落



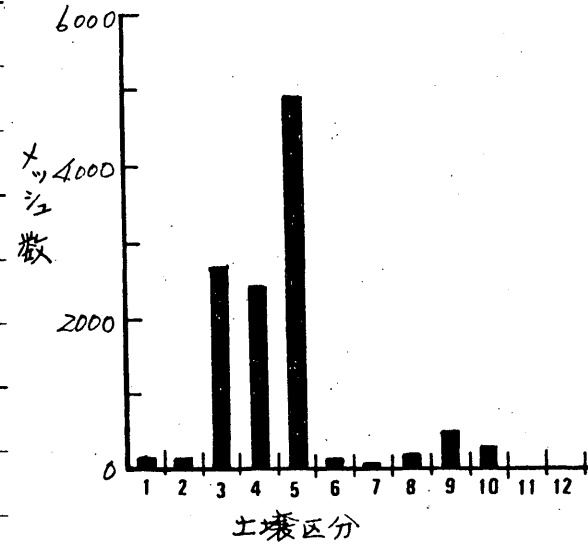
コード	群落名	メッシュ数	出現県
70100A	コナラ群落	11478	岩手、宮城、福島、栃木、千葉、神奈川、新潟、富山、石川、福井、岐阜、静岡、京都、兵庫、奈良、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、高松、福岡、熊本、大分、宮崎、鹿児島
70100B	アベマキ群落	1	香川
	計	11479	



緯度標高別分布図

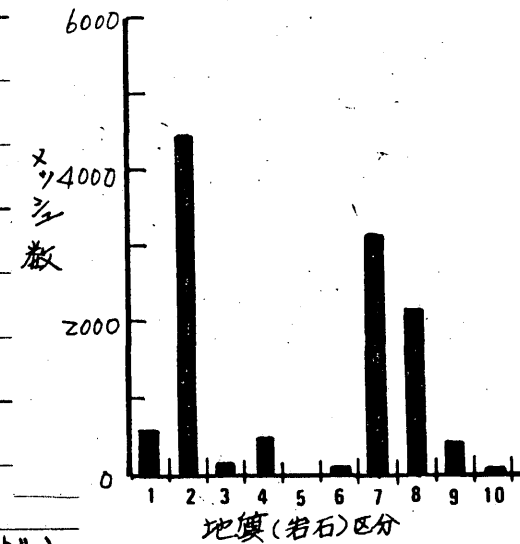


土壌区分別頻度図



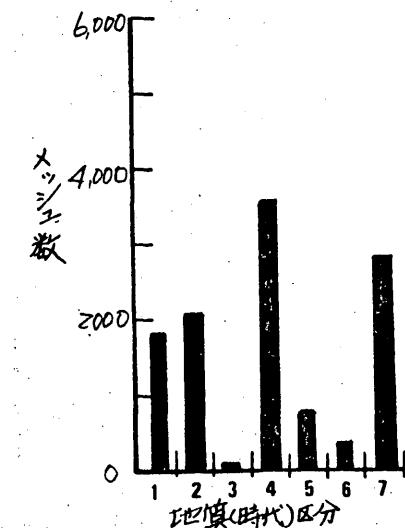
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



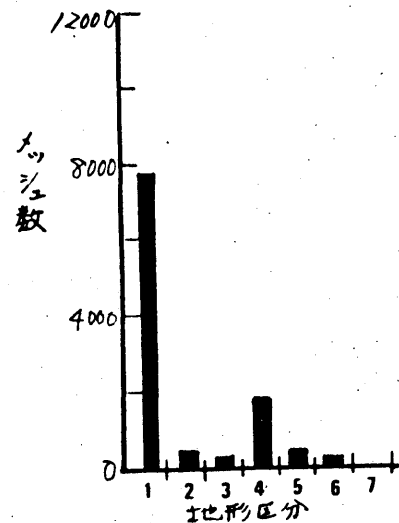
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩)
- 8 深成岩 (安山岩, 玄武岩等)
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

コナラ-クリ群落 *Quercus serrata*-*Castanea crenata* Community

<相観> 落葉広葉樹の高木林, 亜高木林 3~4層構造

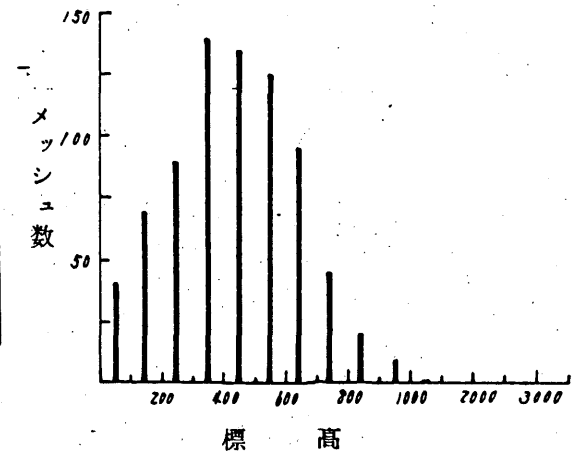
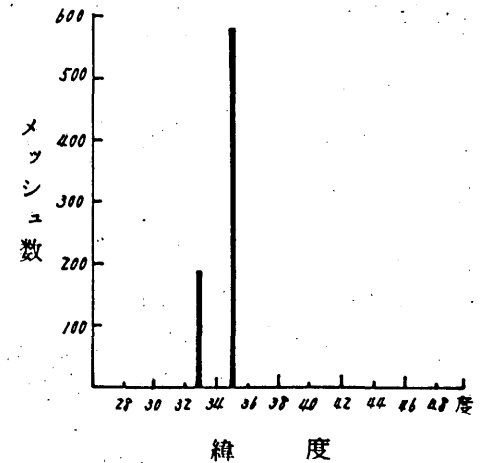
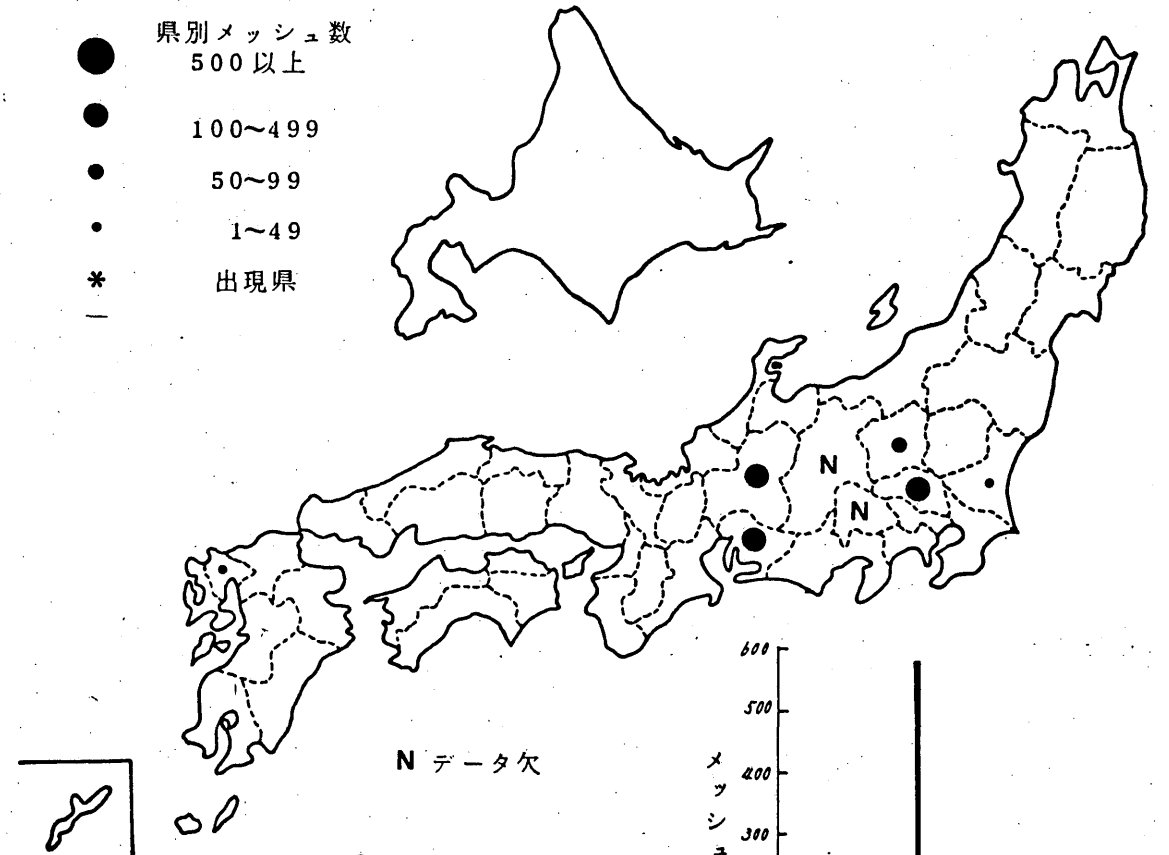
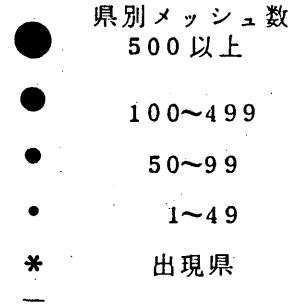
<生育地> ヤブツバキクラス域上部の山地斜面などに生育している。

<種組成> 高木層には, コナラ, クリ, ヤマザクラ, ウリカエデ, リョウブ, アカシテなど落葉樹が混生し, 時にモミヤウラジロガシがみられる。亜高木層, 低木層にもコナラ, リョウブ, アオハダ, ヤマウルシ, カマツカ, オトコヨウゾメなどの落葉樹が多い。草本層には, キゴユリ, シヤビゲ, ヤブラン, ヤブレガサなどが生育している。

<群落の特徴> ヤブツバキクラス域の上部のカシ林やモミ林が切れたあとに生じた二次林である。構成種は落葉樹が大部分を占めている。

<分布> 関東, 中部地方から報告されている。

\*70104 コナラ-クリ群落

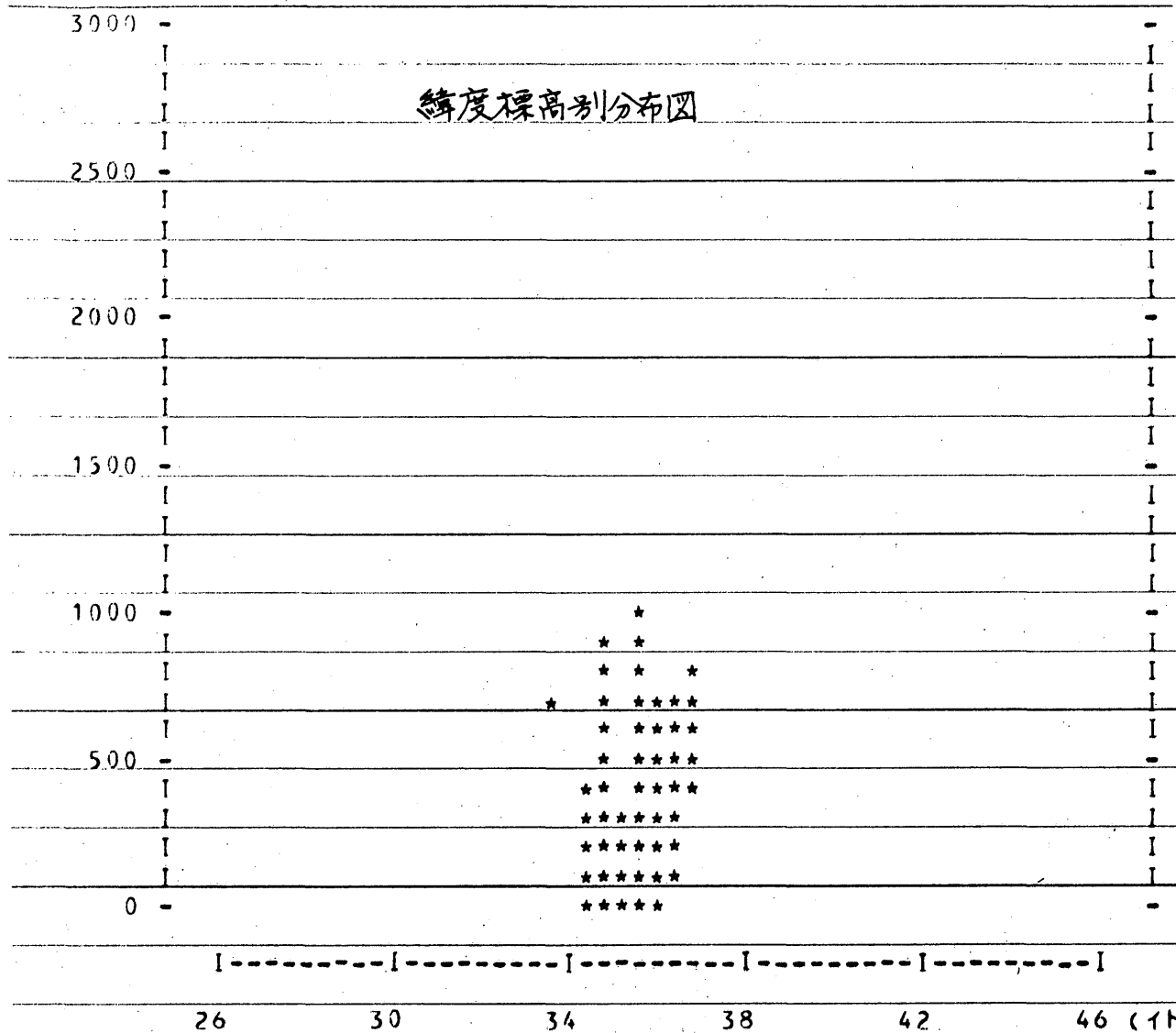


コード	群落名	メッシュ数	出現県
70104	コナラ-クリ群落	773	茨城, 群馬, 愛知, 埼玉, 岐阜, 佐賀
	計	773	

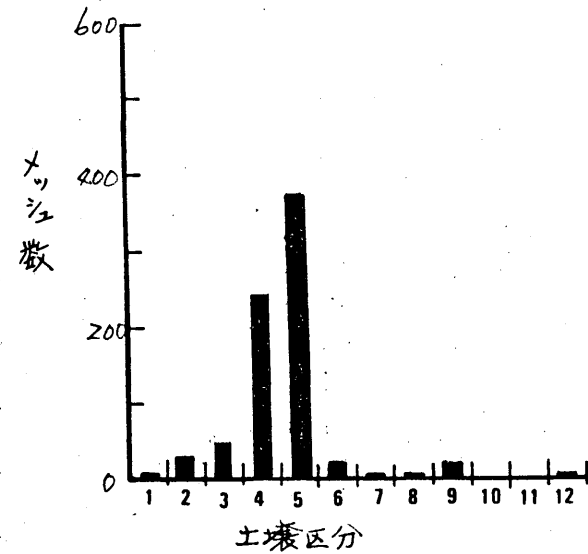
(ヒコワウ)

コナラーリ群落

緯度標高別分布図

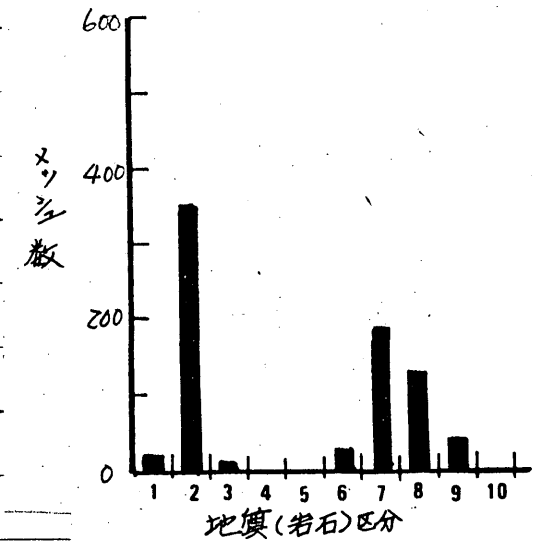


土壌区分別頻度図



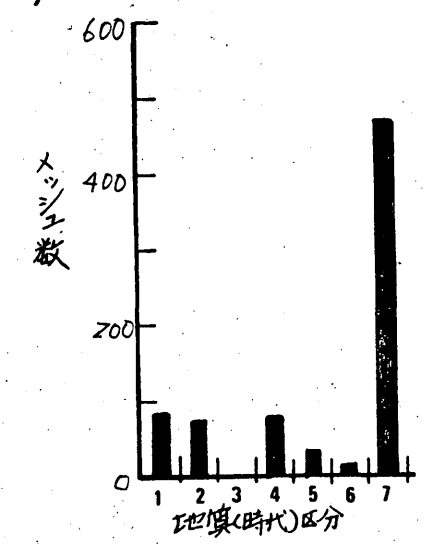
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



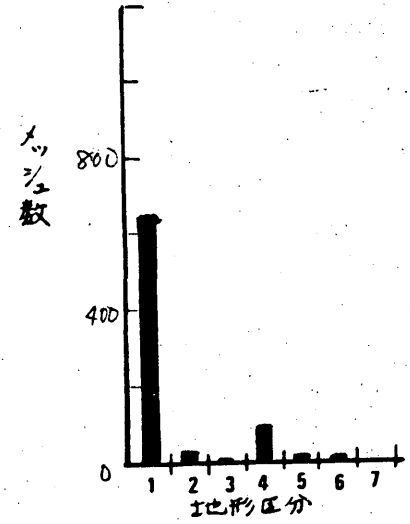
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



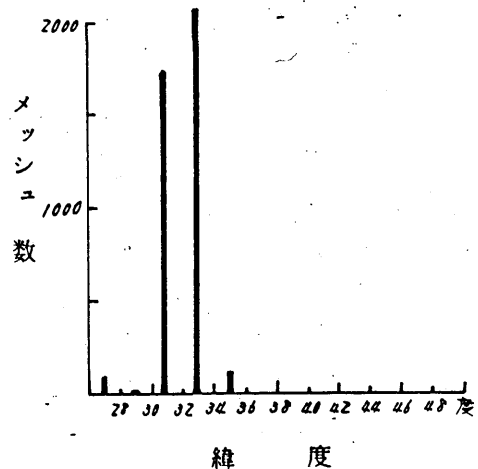
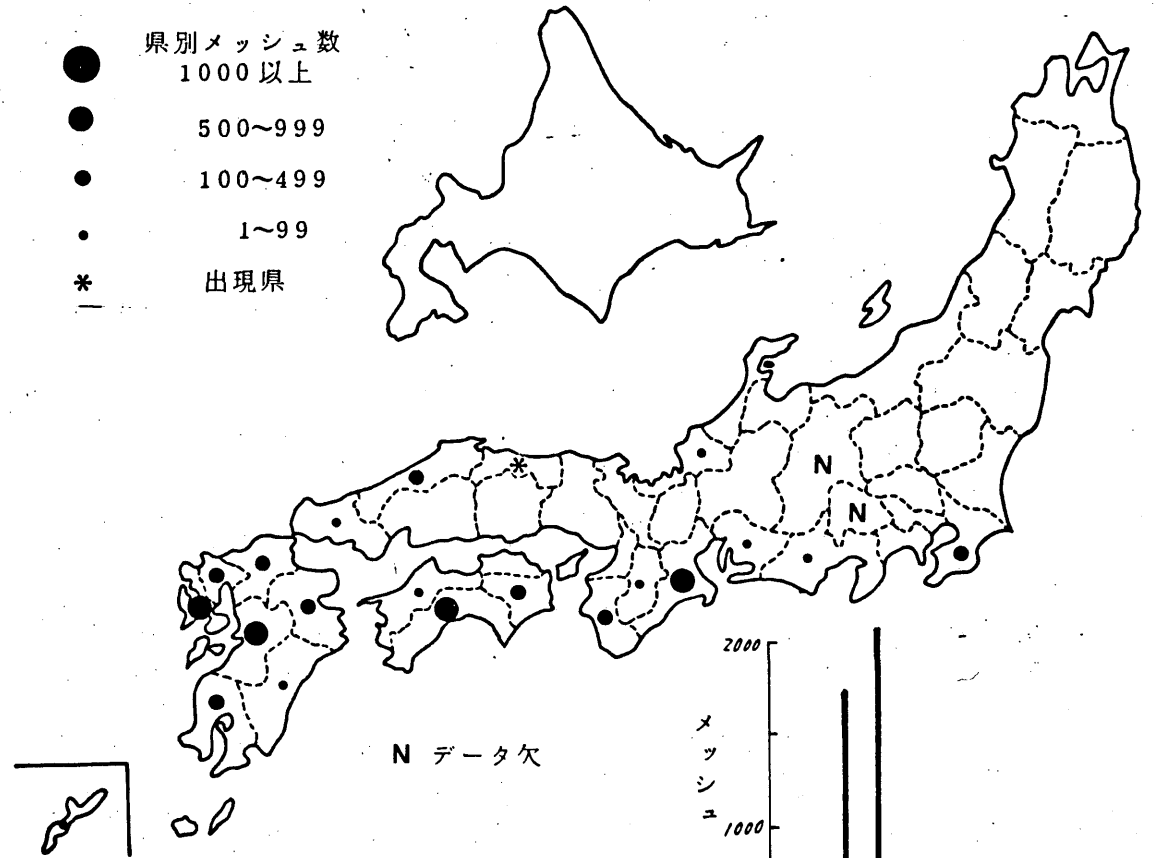
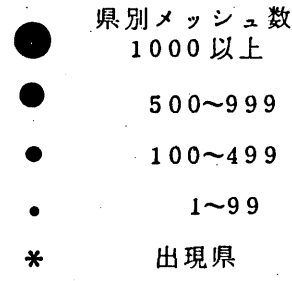
- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、残丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲



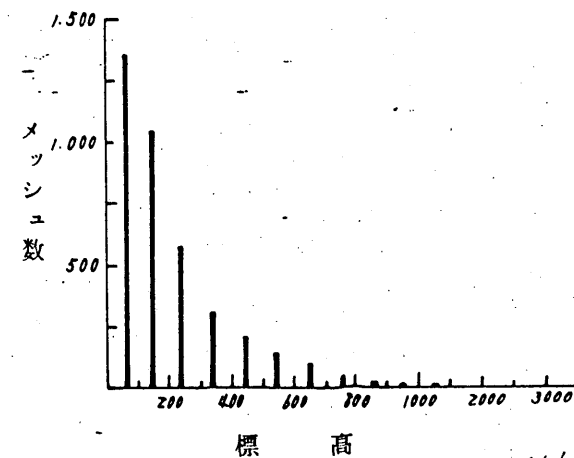
<相親> 常緑広葉樹。高木林、亜高木林、低木林。  
 <生育地> ヤブツバキクラス域で、スタジイ、コジイなどのシイ林やアラカシ、アカガシ、ウラジログシなどのクシ林の成立する地域。  
 <種組成> 高木層には、スタジイ、コジイ、アラカシ、アカガシ、シラカシ、ウラジログシなどが優占する。高木層にはこれら自然林の構成樹種。他、コナラ、ハセキ、カラスガンショウ、アカメガシワなど落葉樹も多く混生する。亜高木層には、ヒサカキ、ヤブツバキ、ヤブニッケイなど。常緑樹やコナラ、リョウブ、ママザクラなど落葉樹が生育している。低木層にはヒサカキの出現率が高く、ネズミモチ、リョウブ、ママウルシなどがみられ、草本層には、ヤブコウジ、テイカカズラ、ベニシダなどの出現率が高い。優占種や構成種は地域や立地、伐採後の年数などによりさまざまであるが、自然林に近い林分では常緑植物の比率が高くなる。  
 <群落の特徴> 自然植生のシイ林、クシ林が伐採された後に生じた二次林で、萌芽によって更新している林分である。若い林分では落葉樹が多く生育し、コナラ林と極めて類似した組成を示している。年数がたつほど常緑樹の割合が高くなり、林母もうち閉れてくる。近年は薪炭林として伐採される機会が少なくなり、そのため、自然林に近い林分も多い。  
 <分布> ヤブツバキクラス域の海岸近くから内陸まで広く分布している。

—61—

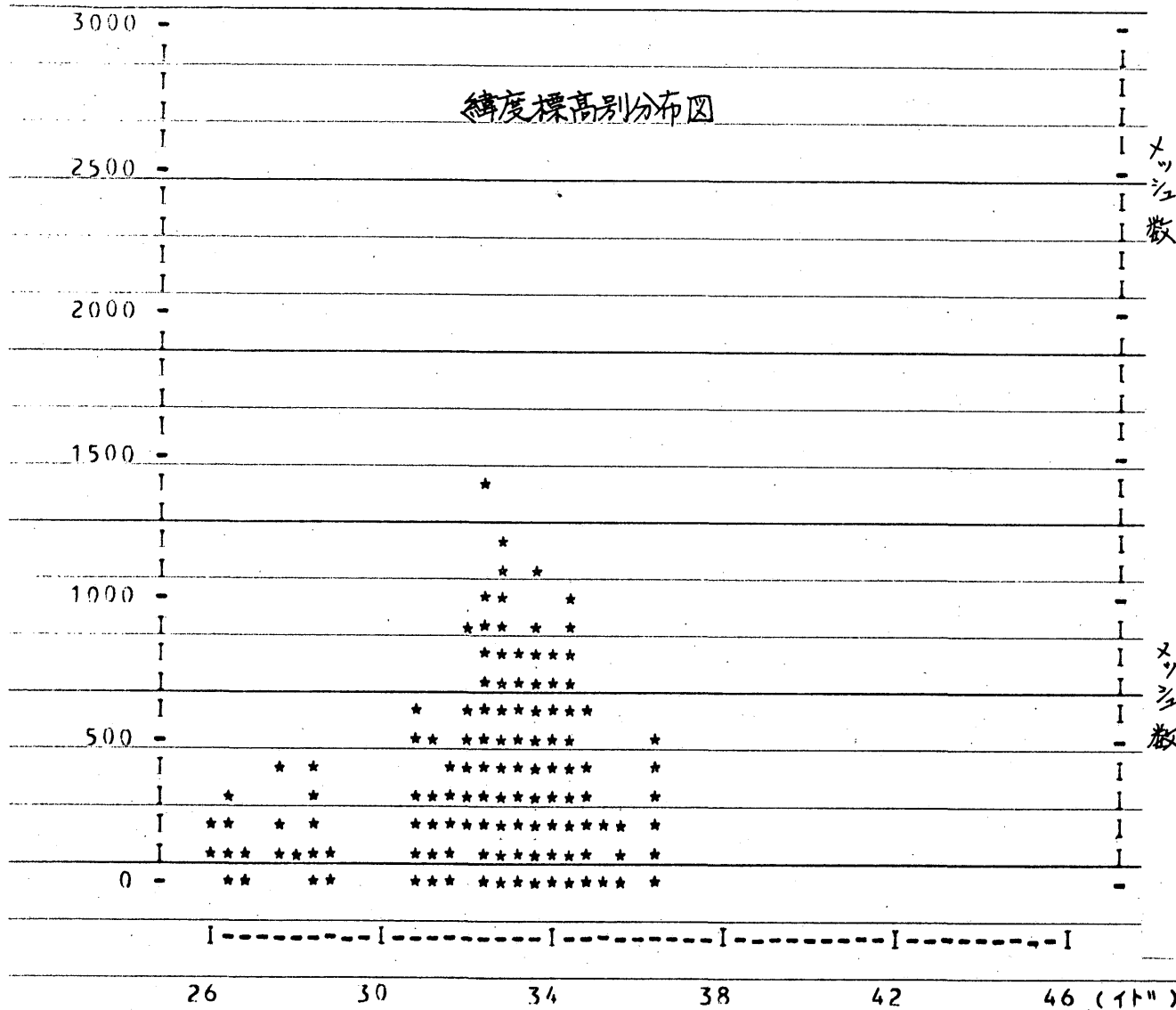
\*70200 シイ・カン萌芽林



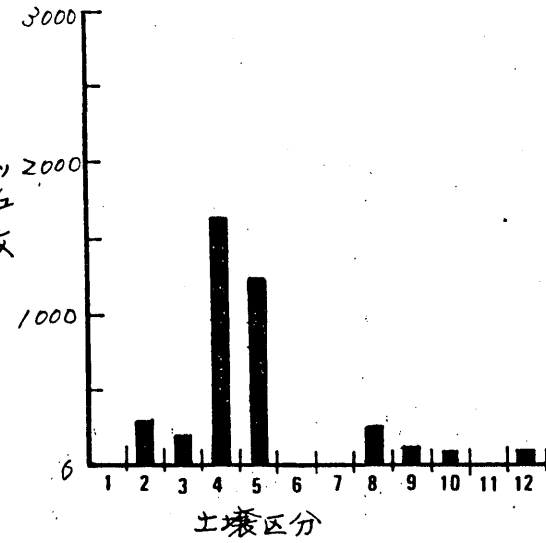
コード	群落名	メッシュ数	出現県
70200A	シイ萌芽林	4040	千葉, 福井, 静岡, 愛知, 三重, 奈良, 和歌山, 鳥取, 島根, 山口, 徳島, 愛媛, 高知, 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄
	計	4040	



緯度標高別分布図

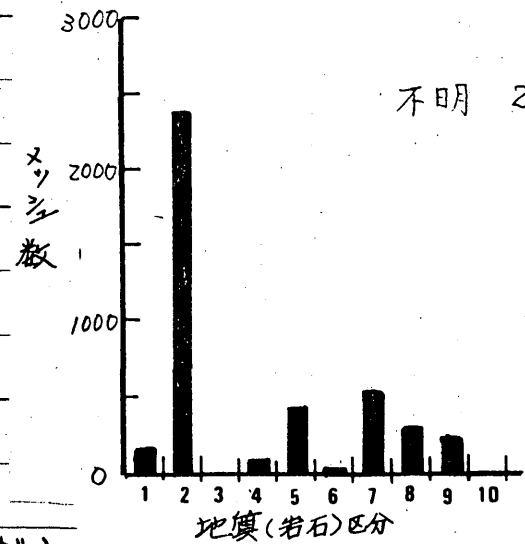


土壌区分別頻度図



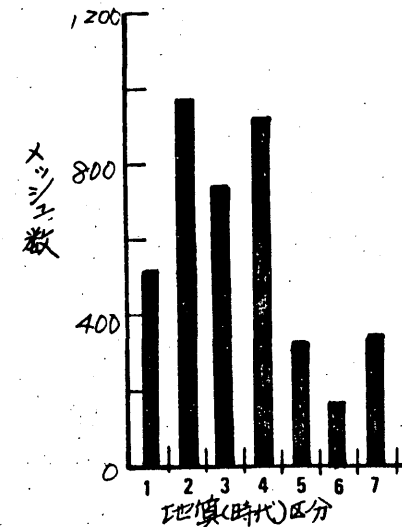
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



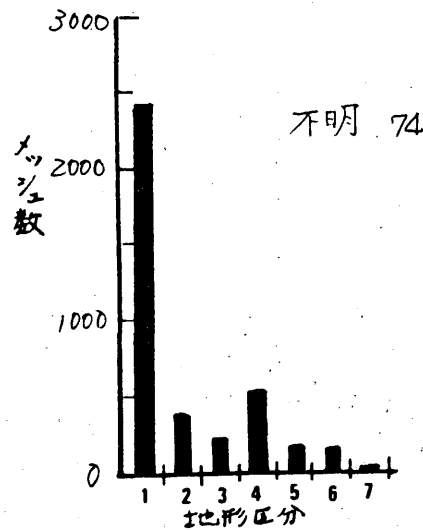
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲